

特203

151

神研究會實驗錄

性慾病自療例

東京 奉公 義會



始



特203
151

精神研究會實驗錄

性慾病自療例



寄贈本



東京 奉公 義會

自序

此書にて性慾病と云ふは、子宮病陰萎の如き肉體的の生殖器病と嫉妬失戀の如き精神的の性慾關係の煩悶とを總括しての名稱である。性慾病を祕密に自療し得れば患者の幸福至大である、其れで編者は性慾病を祕密に私宅に在て自療し得る方法を研究實驗する看板を公然掲げしは、今を去る二十六年前明治三十六年の事である。爾來貧困の患者には無料にて編者の按出せる性慾病自療法を傳授して實驗せしめ、改善に改善を加へて醫藥不治の性慾病患者をして健全無病となし得たる成績の一端を摘録せしものが即ち本書である。

治療上に就て深刻に感動することは、病氣の性質と患者の天性とによりて、藥物及外科療法に限るのがある。又精神及心靈の療法に限るのがある。或は此兩療法を併合して治療せなければならぬのがある。即ち科學の應用のみでは治癒せず、哲學の力に依らねばならぬ場合がある、編者は此見地に立て忌憚なく事實を發表して、一面には學者の教を乞ひ、他面には性慾病患者の參資に供せんとす。併し生殖器病の原因症候を露骨に記述すると、弊害の伴ふを恐れて勉めて之を避け、單に治療方針を示すに停め、患者の精神を淨化して其肉體をも淨化し、健全無病となし、其行動をして公明ならしめ、模範的の國民たらしめんことを期せり。

昭和三年炎暑の候

精神研究會識

目次

(一) 高貴精神心靈療法 一
性慾病の意義 我國の鎮魂歸神と西洋の精神分析療法の應用 奧國博士フロイド氏發見の新療法 西洋科學と東洋哲學の應用療法 藥物器械不用高貴精神心靈療法治療方法及原理 直接通信遠隔の三種の療法 無害有効の新療法

(二) 早老症(心靈若返法) 六
無形的滋養物攝取法 老衰無力若返精力絶倫秘法

(三) 不感症(快感減少病) 九
不感症の原因(精神的及肉體的) 不感症治癒法 夫妻の愛情疎隔消滅法 健康感増進法 愛情合理化の理想

(四) 多産癍(産兒制限と優生運動) 二一
親子生涯の悲惨除去法 無害有効の産兒制限法 不妊症必治法 産兒數調攝法 男兒又は女兒を自由に設け得る法

(五) 醜貌質(心靈的美顔法) 二五

(一七)白帶下……………四二
 白帶下の原因症候||白帶下全治法||
 (一八)赤帶下……………四四
 赤帶下の原因容體||赤帶下必治法||健康感陶酔歡樂法||
 (一九)消渴病(淋病)……………四六
 消渴の原因症候||消渴(淋病)根治法||性慾減退回復法||
 (二〇)比斯的里……………四八
 ヒステリーの原因容體||高貴精神心靈療法輕蔑患者治癒例||悲觀絶望樂觀享樂に變る法||
 比斯的里必治法||
 (二一)ヒポコンデリー……………五一
 ヒポコンデリーの原因症狀||夫婦相互の憎嫌熱愛に變る法||ヒポコンデリー根治法||
 (二二)流産癖……………五三
 流産癖必治法||妊婦健身の秘訣||性器保健法||
 (二三)膀胱炎……………五四

膀胱炎根治法||醫藥無効の生殖器病確癒法||
 (二四)膀胱痛……………五五
 膀胱癌の症候||膀胱癌全治法||
 (二五)陰痿……………五七
 生殖器病は極秘必要の所以||陰痿根治法||
 (二六)陰炎……………五九
 陰炎の原因候||陰炎必治法||色慾の餓鬼愛慾の神の罰||
 (二七)陰加答兒……………六〇
 陰加答兒の症候||陰加答兒根治法||性的不滿除去法秘訣||
 (二八)子宮痙攣……………六一
 子宮痙攣の容體||子宮痙攣必治法||子宮病根治法||
 (二九)子宮頸管加答兒……………六三
 子宮頸管加答兒必治法||憎妻愛妻に變る法||性慾煩悶解決の鍵||
 (三〇)子宮内膜炎……………六四

子宮内膜炎の原因症候 〓 子宮内膜炎必治法 〓 變態性慾矯正法 〓

(三一) 子宮外膜炎 〓 六六

配偶者に反抗する癖矯正法 〓 子宮外膜炎根治法 〓 生殖器健康増進法 〓

(三二) 子宮實質炎 〓 六七

子宮實質炎の症候 〓 子宮實質炎根治法 〓

(三三) 子宮癌腫 六九

子宮癌腫の苦惱状態 〓 子宮癌腫治療法 〓 精力減退補給法 〓

(三四) 卵巣炎 七〇

卵巣炎必治法 〓 絶對秘密自療成功法 〓

(三五) 缺落症 七一

缺落症の原因症候 〓 缺落症根治法 〓 老婆の肉附處女に變る法 〓 配偶者の精力衰退を切に癒す

法 〓

(三六) 頭痛冷症(血道病) 七三

常習頭痛冷症必治法 〓 血の道病根治法 〓

(三七) 男女生殖器諸障害 七五

男女生殖器諸障害自療法 〓 無痛分娩法 〓 惡阻即癒法 〓 陰萎、遺精、夢精、早漏、包莖等醫藥無効
生殖器病根治法 〓 男子性器發育不全、睪丸炎必治法 〓 高貴精神療法無効不治の病人 〓 道徳心
と疾患との關係 〓 婦女の心得べき重大事項 〓

明治天皇御製

器には従ひながら巖をも通すは水の力なりけり
何事も思ふが儘に成らざるが却りて人の身の爲にこそ
さし昇る朝日の如く爽に持たま欲しきは心なりけり
雪にたえ嵐にたえし後にこそ松の位も高く見えけれ
天を怨み人を咎むる事あらじ我過を思ひ返さば
五十鈴川清き流れの末汲みて心を洗へ秋津島人
思ふには委せじとても人心平かにこそあらまほしけれ
己が身を省ずして人のため盡すや人の務めなるらむ
國を思ふ道に二つは無かりけり戦の庭に立つも立たぬも
雨だりに窪める石を見ても知れ堅き業とて思ひ棄てめや

性慾病自療例

精神研究會編著

(一) 高貴精神心靈療法

性慾病の意義 Ⅱ 我國の鎮魂歸神と西洋の精神分析療法の應用 Ⅱ 奧國博士フロイド氏發見の新療法 Ⅱ
西洋科學と東洋哲學の應用療法 Ⅱ 藥物器械不用高貴精神心靈療法治療方法及原理 Ⅱ 直接通信遠隔の
三種の療法 Ⅱ 無害有効の新療法 Ⅱ

1 高貴精神心靈療法

本會にて性慾病と命名せしは性慾に基く煩悶、即ち精神的疾患と生殖器病に依る苦惱、即ち肉體的疾患とを總括せし意である、人と生れて此世に立つ以上は、幾多の煩悶に遭遇し數多の疾患に罹病せざるを得ない、併し煩悶の中でも性慾に基く煩悶は最も深刻である、疾患の中でも生殖器病は最も苦惱が甚だしい、其れで其煩悶其苦惱を除去し精神を清明に、肉體を爽快にする方法に就き、本會にて多年間苦心慘澹せる結果、奏效的確なる高貴精神心靈療法を發見し

た、此療法は近時奥國フロイド氏發見の精神分析療法を經とし、古昔より我國に行はれし鎮魂歸神の法術を緯として成れるものである。

鎮魂歸神の法術は我國特有の法で神に祈禱して神人合一の精神状態となり、靈妙不可思議の現象を呈出する事は、人能く之を知るも、精神分析療法は知らぬ人あるを以て之を一言せん、精神分析療法の發明者は奥國太利ウイナ大學教授フロイド博士で、此療法發見せらるゝや、世界の醫學界を驚倒せしめ、我國の帝國大學病院に於ても之を研究し實驗せられた、併し奥國博士の發見主張故、西洋人には其儘用ひて適合するも、我日本人には不向の點あり、之を本會にては多年實驗研究したる結果、我日本人の性質に適合する様、我國古有の鎮魂歸神の法術を哲學的に研究し融合して作成した、之を高貴精神療法又は高貴心靈療法と云ふ、患者の病的精神を鎮靜せしめ分析するに、心靈の働きを加味して容易ならしめ、其病癥の源泉たる不良の精神分子を發見し除去し、各自に本來具有せる心靈を働かして自然治癒の源泉たる善良なる精神分子の不足を補給し、大自然の癒能力を無限に活躍せしめ、完全なる潜在精神を合成し、其完全なる潜在精神を活躍せしめて顯在精神及肉體を改造し、而して精神的疾患たる性慾に基く煩悶を消失せしめ、又はヒステリーの諸病を治癒し得るのみならず、生殖ホルモン腺の機能を旺盛

にし、天與の健康液ホルモンをして盛に分泌せしめ、又は細胞血液及び筋肉の働きを完全に、新陳代謝の機能を旺盛にして、病根組織を破壊し、健康組織の形成を促し、肉體上の疾患である男女の生殖器病を治癒し、健全無病長壽の人となすのである。

本會の療法は純然たる學術の應用にして、治療上に行ふ一言一句、一舉一動悉く學術上に根據ある者にして、其根幹は東洋の哲學の應用と西洋の科學の應用である。故に哲學に偏せず科學に黨せず、二者融合渾一の原理に基き立案せる者である。之が學說の詳細及び治療の方法は専門に研究せざれば解し難い、精神分析療法の原書は日本語に譯されしものも數種あり、活動の映畫にも作成されてある、(婦人畫報昭和二年十二月號に掲載ありし獨逸ウーファ映畫「心の不思議」は昭和三年四月東京新宿武藏野館、其他にて公開した、此映畫は即ちフロイド博士の精神分析療法を劇に上演せしものである) 心靈療法に關する著書は、本會長の著書のみにも拾數種ある、鎮魂歸神に關する著書又尠くない。

高貴精神心靈療法は新療法なるを以て、治療法として如何なることをせらるゝかと思はるゝ方あるべしと思ひ、爰に其治療法の形式を略述せんに、治療法は病癥の種類輕重と患者の性質境遇等により千變萬化するものである、先づ直接療法を行ふには、術者は患者と相對して種々

の質問をしたり、患者に或る動作をせしめたり、治療寢臺に平臥せしめたり、或る發音を發せしめたりするので、藥物や器械を一切使用せず、況んや生殖器の患部を検すること、生殖器に手を觸るることは絶対に爲さず、而して患者を無意識状態とすることもせず、一人一回の治療に大凡一時間を要す、患者により三十分時間位にて済むこともある、又患者によりては一回の治療に二時間位を要し、甚だしきは四時間を要することがある。其間治療者は非常の努力と忍耐とを要するを以て、一日に餘り多くの患者の依頼に應ずることを得ない、病氣によりては申迄もなく藥物療法外科療法に限るのがある、斯る病人は各其専門大家に就きて受療せられんことを御勧めする、醫藥療法を行ふても外科療法を行ふても癒らぬ病人に限り御出で下さい、責任を以て治療を引き受けます。

通信療法は前述の直接療法を準用して行ふものである、通信療法中何の患者にも通有的に行ふ療法と、患者によりて特行的に行ふ療法とがある、通有的療法は何人にも之を行ふと健康長壽を得る修養法と攝生法とを記述せし書を患者に實行せしむるのである、特行的療法は、患者より送り來りし容體書に就き考察し立案したるものと、靈感によりて得たる所の自療法書とである、此通有特有の兩療法書を患者に郵送す、患者は自宅に在て其療法書に記してある通り

實行し自療し以て健全となるのである。

遠隔療法は前段の通有特有の兩療法を患者自ら行ふ上に、治療術者の心靈をば宇宙靈と合體せしめ治療術者の心力を遠方の自宅に在る患者に對して放送し、患者の心身に影響を與ふること恰も無線電信が空間を経て遠方に傳はるが如くし、以て其患者の病癥を治癒するのである、此療法の特兆として副作用は絶対になく、無害有效の新療法にして、藥物其他の療法を兼ね行ふても何等の差支ないことである、疾患の治療法としては申迄もなく藥物療法を輕視してはならぬ、重ねて云ふ疾患にかゝつたら先づ藥物療法を行つて治癒せられんことを御勧めする、藥物療法を如何に行つても治癒せぬときは最後の手段として本會に御出で下さい、必ず全療せしめて上げます。

高貴精神心靈療法を本會にて行ふこと爰に二十六年、其間に數萬人の患者を取り扱ひし經驗を持つて居る、併し受療患者中本會の治療によりて確に全快したことを本會にて認めし患者は無數なるも、患者は全快すれば本會に用は無いから音信不通となるのが當然で、全快の報告書を本會に郵送せらるるものは極めて稀である、其全快報告書中參考となる者一二と、本會にて治療の效を確に認めし者の中紹介の價值ある者一二とを要を摘まんで以下に列記する、斯病に苦

しむ方々が本書によりて力を得て安心し治癒の彼岸に達せらるゝ道知るべとなれば幸甚である
同じ生殖器病の治療にても、本會の實驗によると男子病は全癒せしむるのに婦人病に比して實
に容易でありし、男子は女子に比して羞恥心が少ないから、男子病に就ては治療の経過如何を
極めて研究資料を得ること容易なるも、婦人は婦人病に就ては極秘を要する故、治療後に於け
る病氣の變化治癒の経過を確むること頗る困難であつた、爲に多くの婦人病患者を取り扱ひし
割合に婦人病に就ての参考資料の少なきことを遺憾とする、記述せる病氣の原因、症候及治癒
の原理につき醫學上の説明は勉めて避け、通俗に卑近の例を記述せり、之は小學卒業程度の學
力で解し得らるゝ目的を以て記述せし故である。

(一) 早老症(心靈若返法)

無形的滋養物攝取法 老衰無力若返精力絶倫秘法 二

彼の盆栽の葉が涸れ衰へても、其寄生蟲若くは黴菌を除き、肥料と培養とが宜敷を得ると、
生き返り葉は青々として新芽を出し、盛に生育するが如く、人間も何かの理由によりて老衰す
ることがあつても、適當の方法を施すと青春に返る、況んや年齒壯にして老衰せる人をして、

若返らせ回春の喜びに浸さしむることは當然なし得る所である。

人體活力の根元として、物質的の滋養物は存外價値が少ない、富者が物質的滋養物を多く
攝取し乍ら、虚弱で短命であるのに、貧者が粗食し何等の滋養物をも攝取せざるに強健にして
長命するのは何故か、人間には物質的滋養物の外に無形の精神的滋養物が必要であるからであ
る、彼の禪宗の僧侶が禪堂にて禪の修業中、食物は粥を一椀に、香肴一切宛にて心身鐵の如く
健全なるを見よ、之は禪と云ふ無形の精神的滋養物を多く攝取するからである。

人間が生れながら具有せる精神及心靈を治療によりて活動せしめて、大自然の癒能力を無限
に發揮し、體内に蓄積せる病源を驅除し、衰弱せる局部に起生力を旺盛にし、新陳代謝の機能
を促進し、血液を青春化し、沈靜せる生殖機能を復活して、其發育と活動力を旺盛ならしむる
のである、換言すれば精神力及心靈力を活躍せしめ、精力衰退せる老衰者をして其精力を喚
起して、壯年の勇氣と元氣とを永遠に保持せしめ、老いても青春の心持で居り、外貌も動作も
若返りて、元氣は潑刺として、健康の快味を心ゆく迄、玩味せしむることを得るのである、古
來世界的の大事業を成し遂げし偉人は、悉く精力絶倫群を越えし人で常に知らず識らず若返法
を實行せし人である。年齒未だ若くして老衰を感じる様の弱身では、人後に落ちざるを得ない

から若返法は何人にも必要である。

某男爵の令嬢物質上に於ては何等の不足はないが、精神的に於ては人知れぬ心勞煩悶を重ねし結果、早老症にかゝり歳は二十四歳であるのに、其態度容貌音聲は三十四歳位に見ゆる、令嬢自ら精神的滋養物を攝取して癒さねばならぬことを悟り、本會の通信療法を受け、自宅に居り乍ら人に知れぬ様、秘密に本會傳授の自療法を實行し修養せる效果現はれて見違へる程若返り、青春の氣に充ちた、令嬢の容貌血色態度音聲若々しくして十九歳位に見ゆるに至つた令嬢の父男爵大に感じ、本會を訪はれ感謝せられ、且「老衰者が若返る理由」を問ふた、本會にては簡單に左の如く答へた、本會の若返療法は、精神的滋養物を老衰者に與へるのである、すると老衰者の細胞血液は青春の細胞血液と同じに活躍する、其精神も青春となる、從て其肉體も青春化し態度も風彩も容貌も音聲も若返り、精力も旺盛となるのである」と答へたら、成る程と感心せられ、男爵「吾輩は歳は老いても老衰せない、此通り元氣であるが、若返法を行ひ一層若返り青年の元氣を得て大に活動をしたいから吾輩にも若返療法を行ひ呉れ」とて直接療法を受けられ、大に若返られ、青春の氣が充ちた後日男爵の郵書中に「御蔭で血色も態度も若返り、政治期節には連夜十二時後に非ざれば就寝するを得ず、其れで朝は六時に起き終日熱

烈に奮闘をしても疲勞困憊を少しも知らなくなつた」云々の文句があつた、男爵の如く毫も老衰せぬ健全者にして老衰を豫防し、一層青春化していつまでも青春を保たんとして、若返自療を本會に申込まるゝ紳士淑女尠くない。

(三) 不感症(快感減少病)

不感症の原因(精神的及肉體的) 不感症治療法 夫妻の愛情粗隔消滅法 健康快感増進の秘訣 愛情合理化の理想

異性は互に相愛し相接して快感あるのは、其異性兩者の細胞が互に引き合ふ男女陰陽の魔力を持つて居るからである、異性が互に相排斥する思想を抱かば、其細胞も又互に相排斥し合うて不快感を起す、又何かの理由によりて不快感を覺ゆると其不快感が潜在精神となる、即ち本人の氣附かぬ潛ある精神となつて居る、其の不快感の潜在精神は、忘れて自覺せず居ても、顯在精神即ち普通精神が前と同一事件、又は類似事件に遭遇すると、先の潜在精神と聯合して、本人は氣附かぬのに其肉體を左右して不快感或は全く無感覺となる、甚だしきは驚怖感或は、苦痛感を起す、之は精神上の原因より來りし不感症である。

肉體的原因より此症に罹れるものは、花柳病に罹れるか、又は生殖器病に罹れることが原因として、苦痛を伴ふからである。稀には先天的の畸形よりして天賦の眞味を解せず、夫婦の愛情を粗隔し、家庭の圓滿を缺き、不幸の人となることがある。

新聞の雑報に能く見る所の戀愛關係の爲に、生命を犠牲に供する人は、生命にも代へ難き快感の妙味が忘れぬからである。然るに之に就て存外冷淡なる人は、自分は不感症に罹れることを知らずに居るが、既に此病人であるから早く爰に氣附いて治癒せぬと、終に其れが夫婦粗隔の原因となり、家庭の幸福を奪ひ去ることがある。

二十五歳の會社員の奥さん、初婚當時より良人と性慾不權衡を感じて居つた、加ふるに子宮内膜炎を患ひしことがあり、今では全治したるも之が原因で不感症にかゝり、婦人科醫に就き診療したり、種々の賣藥を服用したるも効果が顯著でない、併し子供を懷妊すること、屢々なるも不感症は益々高まる、之が爲に良人が花柳界に遊ぶこともなりては家庭の破滅であると、苦惱煩悶して居りし時、ふと本會の療法は斯る病氣には效能神の如くである、と聞いたが半信半疑にて本會の通信療法を受け、秘密に人知れぬ様に熱心に自療したら、次第次第に元氣活力を増進し、生殖線の分泌作用旺盛となり、良人と愛情の均衡を得、愛情合理化の理想に達し、

人生最上の歡樂に浸り、良人の元氣を旺盛にし、家庭をして人生の樂園たらしむるに至つた、實に健康愛は夫婦生活を楽しくし、家業を繁榮ならしむる根本である、ことを體驗する幸福の身となつた。

(四) 多産癖(産兒制限と優生運動)

親子生涯の悲惨除去法 無害有効の産兒制限法 不妊症必治法 産兒數調節法 男兒又は女兒を自由にて設け得る法

我國の人口は年々大約百萬人宛増加する、然るに衣食住に必要な綿糸、米麥、木材等不足し外國より輸入して辛くも間に合せる現状で、諸物價は益々騰貴する、加ふるに世が文化に進むに従つて、生活費用は年々歳々増加するが、収入は之に反して年々歳々減少する、然るに産兒が斯く年々増加しては、生活が益々困難となり、前途は不安に堪へぬ。

妊娠及出産を嚴禁すべき病氣は、肺病、癩病、花柳病、精神病、心臟病、腎臟病、糖尿病、脚氣、其他遺傳性の疾患及び病弱者である、之等の患者が妊娠し出産すると、母體の生命が危険である、其れで醫師は之等の患者が妊娠して居ることを確むると勸めて流産さす、併し醫

師に流産術を依頼すると多額の費用を要するのみか、健康を損じ生命を失ふ危険がある、故に妊娠すると悪い病人は、豫め避妊法を行ふが得策である、病弱な婦人が妊娠すると母體は益々病人となり、大抵は難産で其爲に死するものが我國には毎年數千人ある、幸にして出産するも産兒は虚弱にして母體は益々病弱となり母子共に生涯苦惱せねばならぬ、無産者にも産兒が少なれば生活は樂であるが、産兒が多いと生活は困難の度を高めて親子諸共一生涯、悲惨の境遇を脱することを得ない、殊に悲惨なるは私生兒である、私生兒の將來を思ふと罪の報ひの餘りに慘酷なるを寒心せざるを得ない。

之に就き本會にて多年間苦心研鑽を續けたる結果一大秘法を創見した、其效能の顯著なることは、醫學界の耳目を聳動し、實驗家の視線を集注し、多大の尊重を以て喧傳するに至つた、本會の療法が眞に普及せらるれば、之に關する社會の悲惨事を絶滅するを得ん、本會の療法は申迄もなく、機械も藥品も用ひず、單に精神作用心靈作用によりて、潜在精神を動かし以て血液中の細胞及白血球の働きに變化を起さし、生殖作用の重要機關である卵巢又は睪丸の機能に制限を加へれば産兒制限となり、此機能をして旺盛に活躍せしむれば不妊症治療法となるのである、故に安全にして何等の危険もなければ副作用もない、精神及心靈作用による潜在精

神の働きは實に不思議で、本人の自覺せざる體内の諸機能を左右し、以て其目的を達するのである、此原理と此應用とによりて産兒の數を適宜に調節するなり、男兒又は女兒を自由に妊娠し出産することもなし得る道理である、本會の高貴精神心靈療法は産兒制限に用ゆるは實は逆にして、生殖作用を旺盛にして子なき人に子寶を授けること即ち不妊症治療が本則である、健全兒を出産せしむる優生運動の効力が偉大である、約言すれば本會の療法は優生運動が本則にして、産兒制限は逆用である、遠隔療法によりて之が好成績を挙げし面白き實例あるも憚る所ありて省略する。

(五) 醜貌質(心靈的美顔法)

醜貌を美貌に改造する心靈法II精神美肉體美發揮法IIモガモボ憧れの美貌となる法II

私は生れつき醜貌にて困るから、心靈的美顔法を施し美貌に轉換し呉れとて、本會の通信療法部に申込んだ、郵書中に左の文があつた。

- 一、顔に見にくいニキビとソバカスがある。
- 一、肌があれて先天的に色が薄黒い。

- 一、顔又は口唇に吹出物が出て困る。
 - 一、蚤蚊に食はれても直ぐに腫れる。
 - 一、顔に愛嬌がなく、憂鬱勝ちである。
 - 一、顔は垢ぬけがせず、首筋が短かくて黒い。
 - 一、態度が淋しくて、活氣がない。
 - 一、黒水晶の様に澄んだ魅力ある眼になりたい。
 - 一、聲が瘖ばしつて、人に不快を與へるから、金鈴の様な美聲になりたい。
 - 一、モガモボ憬れの美貌になりたい。
 - 一、皮膚を綺麗にして、若々しい肌になりたい。
 - 一、血液の循環が悪く皮膚の青黒いのを白色淡紅としたい。
 - 一、坐談が下手であるから、磊落な断上手な交際家になりたい。
- 斯る症候と希望とを以て本會に通信療法を申込た患者は、十九歳の女學生にして、尙書き添へし郵書に曰く「米國にて有名な美容術研究家女醫ルス、ワヅワース女史曰く、美容法として紅や白粉を塗る事、美容を保つ食養を行ふと云ふ物質的の事に止まらずして、精神的な糧を採

ねば眞の美容は得られぬ、美容は單に社交上とか異性の羨望の的となるとかの必要上よりでなく、美容は生活上の大資産と考ふべきもので、美の持主が眞に生きがひのある生活を營む事が出来る、其實行法として、精神を美しく若く力あらしめ始終努力を怠らざるにあり、と云ふてゐる、私の意を得た金言である、私の顔には從來の美顔術を施しても美顔にはなれぬ、單に皮膚のみ綺麗にしても駄目だ、夜叉の精神を抱いて菩薩に見せんとするは無理だ、精神を美しく淨化して其細胞及血液をも淨化せなければ、眞の肉體美は發揮されぬと思ふ、貴會の療法は精神を淨化して肉體をも淨化せんとするのであるから、私の日頃の考へに吻合してゐる、貴會の療法では肥り過ぎを瘡形とし、瘡形を肥り形に變へることも出来得と聞きしが、眞實なら私の肥り過ぎを中肉にすることを併せて頼む」と本會之等の患者の希望を悉く達し得る様に、自療法を處方し傳授するや、女學生は本會傳授の自療法を熱心に至誠を凝めて日々實行しつゝ、鏡に向て寫る自己の姿を日々眺めて、確に効顯を認め、自療一ヶ月にして見違へる程美しい豐滿の容貌となり、態度も爽快になつたのに、非常の確心を得、進んで引續き永く自療法を熱心に實行した、其結果天賦の美の發達を妨げた缺點悉く除かれ、天性具はれる生地的美を發揮し、小兒の様な天真の高雅な氣品を具へた、愛くるしい快活な令嬢となり、綺麗な美顔と笑顔の持主

と變つた、實に眞、善、美、兼備の憧れの女性となり、音聲まで若返りて朗らかな愛らしい美音となり、希望を悉く達せられた、本會の療法は斯る効果があるのであるから、天性美貌である俳優及藝妓が、更に一層美貌となり且表情美を發揮せんと欲して、本會に受療を申込み、其目的を達せられし人もある。

(六) 性的神經衰弱

交際坐談上達法 悲觀不平絶滅法 意思強固法 讀書力増進法 赤面恐怖癲必治法 性的神經衰弱必治法

凡そ成功の秘訣は職務に勉勵すると共に心身の健康法を常に實行するにあり、世が文明に進むに従つて、神經を使用することが益々多くなる、如何程働いても仕事は盡きぬ、其れで自然に神經に無理をするから神經衰弱症となる、神經衰弱に罹りても初歩の中は氣附ずに居る、只私は近頃記憶が悪くなつた、讀書中注意が他に散る、沈着な氣分になれぬ、常に頭の工合が悪い、讀書を三十分も續けると倦きて疲れる、其時は既に神經衰弱症となつたのである、自分で心身の異和を感じ己は神經衰弱に罹つたと自覺するときは既に重症となりしときである、

其れを早く全治せしめぬと有爲の人才も廢物同様の肉塊となる。

二十五歳になる會社員の奥さん、本會へ送りし郵書に「妾の神經衰弱の容體は數多あるが、其中心附きし要點を左に認めました」と前置きをして次の如く記してあつた。

治療して戴き度い點

- 一、頭が重くぼんやりする、稀には頭痛がする
- 一、始終つまらぬ事で、心を痛めてゐる
- 一、美味しいものは食ひ過ぎて、胃腸を痛める
- 一、仕事には飽き易くて、直に疲れる
- 一、坐談が下手で人を感心させ、喜ばせることが出来ぬ
- 一、悪いことゝ知り乍ら、夫れをついやつて仕舞ふ
- 一、全身倦怠を覺えて就業を嫌忌し、白晝も睡眠を催す
- 一、自分の悪いことを棚に上げて、人の失策をば強く責める
- 一、人を輕信して損をし、後に悔いることがある

- 一、些細の事を氣にして忘られず、陰險にして復仇心が強い
- 一、夏になると水類を飲み過ぎ、人並以上に暑がりである
- 一、臆病で小膽で、無元氣で意氣地がない
- 一、家族も、親類も、先輩も、知人も、頼みにならぬと思はれ心細い
- 一、汽船に乗ると頭が重く、氣分が悪くなる
- 一、過去の失敗事と異性の事を妄想して、人知れぬ苦惱が絶えぬ
- 一、左も無き事に赤面したり恐怖したりする
- 一、一寸した事に腹を立て、人の感情を損ねることがある
- 一、讀書慾は在ても讀書を續ける根氣がない、讀んだことを皆忘れて仕舞ふ
- 一、爲すべき事を忘れて行はず、飛んだ失敗をすることがある
- 一、是非善惡の判断を誤りたること、が後に分つて悔いることがある
- 一、遠慮せでもよいことを遠慮し、應接に失敗する
- 一、何をしても心の底から、飛び立つ程愉快と思はぬ
- 一、磊落に、快活に、愉快に、元氣に談笑が出来ぬ

- 一、無意義に雇人や亭主の氣を損じ、家庭に風波を起す
 - 一、人の氣嫌を執りて喜ばせ、家庭を人生の樂園とする事が出来ぬ
 - 一、人の出世をねたみ、嫉妬心が強く、同情心が薄い
 - 一、無意識に不平不満が起き、何事も悲觀して、感謝の念が起らぬ
 - 一、言葉が足りないで後悔し、又言ひ過ぎて後悔することがある
- 妾は以上列擧せる如き不完全なる心身で御座います、此原因は學生時代不自然の性行爲をせしよると思ふ、斯様の容體が一つでもあつては、到底出世は出来ぬ、精神的の大不具者と思ふから、是等の病癖は悉く消え失せ、人並の人間となる様、御治療を願ひます。
- 患者が以上の如き數多の病癖が生ずるに至りし原因は、檢診の結果、處女時代不自然の性行爲をせしと、過度の心勞である事を確め、處方書を認め通信療法を送りたれば、患者は精讀して熱心に自療した、神經衰弱患者の多くは本會より送りし自療法を眞に實行せざるものあるのに、此患者は非常の熱心を以て自療したれば、日一日に輕快し終には全く病氣の原因は除去され、神經は強健となり最も苦痛に堪えざりし赤面したり恐怖したりする癖全く消え、其他前現の症候は悉く消え失せた、其後尙本會教授の修養法を家政の餘暇に熱心に引續き實行し

たれば、活動的精神力全身に充實し益々快活と愉快との度を増し、坐談が上手になり、悲觀不平は絶滅して歡樂を以て胸中は常に充され、意思は確乎不拔に堅固となり、妄想癖は消えて何事も安心し、家庭の劇務に従事して如何に神經を使ふとも、精力を濫費しても、疲勞を知らざるに至つた。其喜びの餘り、本會に寄せし謝狀に「近頃は妾の動作が一變したので、亭主も何となく喜んで、家庭に暖か味が出來た、従來は知人よりも疎んぜられたのが、近來は非常に親密となり、信賴を受くるに至つた。之は皆自分が今迄は至らなかつたのが、貴會の療法で心身の病苦を大掃除して、清潔にした結果注意が屆く様になりし所以と存じます云々」と見えた。(因に云ふ受療しても、本會に報告書を出すのは馬鹿馬鹿しい、とかきまりが悪いと思ふ心理状態の人は、受療しても癒るのに手間が取れる)。

(七) 腦神經衰弱

藥物無効腦神經衰弱根治法 Ⅱ 性倦怠回復法 Ⅱ 頭腦爽快記憶増進法 Ⅱ 夜夢を見ず熟眠し得る法 Ⅱ

二十七歳になる公吏の夫人、三年前から猛烈な腦神經衰弱に罹り、腦神經専門の大醫に就き電氣療法、藥物療法、マツサージ療法を受け、一時輕快せしも、又元に戻り、今では病勢は重

くもならず、輕くもならぬ、が全治の見込なく前途心細く悲觀して居る、時に知人が勸めて曰く、精神研究會では二十數年來、此種の病氣の治療を行ひ、華族方の間に大信用があり、重い腦神經衰弱を全治したことが無數で、古屋會長の療法を受くると屹度癒る」と云はれた、が夫人は其勸めを信ぜず、醫藥療法のみを行つて居たが、今迄善いといふ療法を悉く行ひ盡して癒らぬのであるから、半信半疑で騙されたと思つて、本會の遠隔療法を受けたことを後に知つた、然るに本會の遠隔療法を受療すること僅か十日間にして、多年の頭痛が消えたのに、患者は光明を認めて驚喜し、忽然本會療法の大禮讃者と一變し、従來の不平は感謝に換つた、感謝の念を起すや心は清く平和となり、次で受療十一日間にして首筋の張りはとれ、元氣が増したのに一層力付き、次で受療十日間にして自信力が非常に強まり、頭腦爽快になり記憶力は大に増進した、其後十一日間の受療を續けたら性倦怠の感を知らなくなつた、其後は本會傳授の自療法を家業の餘暇に猛烈に自修するや、何事に對しても感謝の念が湧然として起き、心は益々清くなり、體も愈々健かとなり夜は夢を見ず熟眠し得、病氣中と全快後とは顔面の表情及態度の變化、實に非常で、元氣横溢せる勇氣ある身心となつた、従來は良人のみ精力絶綸であり夫婦生活の倦怠に絶えざりしも、今は良人以上に精力絶綸となり、夫妻兩者の愛情は渾然融合

し、靈妙なる回春の喜びに浸り、云ふに云はれぬ健康感を味ふを得るに至り、天に感謝し地に感謝す、感謝すればする程心は清くなり健全を益す、且患者の弟にて高等學校在學中の者が記憶が悪くて困つて居たのを患者は自分の行ふ自療法を弟に勧めて行はしたら、弟の頭腦爽快となり記憶力が増進し旺盛になり、讀書に注意する力が強くなり、永く讀書を續けても疲勞を感じなくなつた、とて喜んで居る旨の報告に接した。

(八) 自瀆 癖

自瀆の害測定標準 氣兼尻込癖消去法 自瀆癖矯正法 自瀆害除去法秘鍵

生殖器に障害を起せる原因は、破瓜時に何等の思慮なく自瀆したるによるのがある、一度自瀆すると、其れが癖となつて不知不識深入する、精力旺盛の心身發達の年輩にては其被害直には現れざるも、終には其被害現はれる、即ち心身倦怠して元氣なく、不活發となり過度に氣兼をなし尻込をするのは、其害の現れの第一期にして、頭腦は朦朧として頭痛頭重を來し、讀書しても注意が集中せず、思考力衰へ、消化力減じ、視力弱まり、耳鳴がし、局部の神経過敏となり、輕微の刺戟にも興奮する、心氣は鬱々として少しの感動にて動悸が烈しく打ち、見るも

の聞くもの悉く不平の種となる、之は其害の現れの第二期にして、第三期と進むと顔色は蒼白となり、眼窪みて唇は灰白色となり、生殖器に異常を來す、稀にはヒポコンデリー、鬱憂症、心臟肥大症を併發する者あり、ふと雑誌の記事にて自瀆の被害の恐ろしきを知り、惡癖を斷然矯めんと決心しても、其惡習と生理的の慾望の發作に捕はれ、無意識に又之を犯す、其被害の大なるを自覺しての後に、其癖を重ねる害は、非常に甚だしい、之は其患者が既に其惡習の爲に病弱者となれるのに、尙被害の行爲をなし、自責の觀念が自己暗示となりて眞に恐るべき大害を來たし、重い神経衰弱者となり、又は重い生殖器病者となるものがある。

本會の療法は患者本位で社會奉仕として行ふのであるから、患者の御名や御病狀を絶対に秘密にすることを世間にて能く知て居る、其れで此癖に悩む二十三歳の處女安心して本會に通信療法を申込み、自療法を秘密に眞面目に實行するや、一長い間心配した心悸亢進と血壓亢進を降下し、疲勞感と氣兼感消え、克己心が強まりて、其癖は全く止み、意思は高潔なる娛樂に轉換され、夜は就寢するや直に朝迄熟眠して夢を見ず、心身は健全となり、顔面は淡紅色となり、動作は快活となり、如何程勞働しても、勉強しても疲勞を覺えず、大衆の前に出てても氣兼をせず談笑し得る様になり、容貌態度高雅となつた、嬉しさ例へんやうもない云々」との報告があ

つた。

(九) 嫉 妬 癖

嫉妬情炎消失法 嗜きた異性嫌ひな異性好きになる法 性慾倒錯症(同性愛)必治法 情人有無確知法(夫に情夫妻に間男の有無を確知する法) 淫婦姦夫を絶縁さす法(夫と情婦妻と間男と絶縁さす法) 童貞の信偽と處女か非處女かを明知する法 夫妻異體同心實現法

某伯爵夫人三十五歳本會に自動車を横附にして會長と面談して曰く、私は先生の著書を數回熟讀したり、心靈學者の話を聴きたりした處によつて、質問したき點がある、貴會長が無我の極點に達し靈能を發揮すると、佛敎に云ふ千里眼千里耳の現象を呈し、會長個人の精神は宇宙精神と同化し、過去現在未來皆同一となりて、宇宙間に存在することは千里遠方の事でも、千年前の事でも、凡人が眼前の物を見、言を聴く如く明瞭に見聞されるので、或娘は婚約を結ばんとせる相手の男子は童貞を守りあるか若し童貞破れしとせば、相手の女性の氏名、住所月日場所を知らして呉れと申込むと實地見聞せし如く百發百中誤らざる解答を得と聞くが、之は事實を誇大に吹聴せしものでしよう、或富豪の主人變態性にて召使の女中を迄苦しめ其奥さんは

苦心の極、何人にも秘密にて貴會に遠隔療法を依頼し、其主人をして無意識に品行を方正とならしめ家庭を理想化したとの嘯を聞いたが、之は嘘嘯でしょう、又或由緒ある家庭の娘の賤家の若男に懸想して、父母の熱望せる地位、名望、學識、財産、兼備の子息よりの縁談の申込を固辭して困るので其母は娘には秘密にて貴會に遠隔療法を申込み、其娘の好きな男を嫌ひにし嫌ひの男を嗜きにして、父母の思ふ通り良縁が結ばれしとか聞く、之も嘘嘯でしょう、貴會の療法では人の心を如何様にでも變換せしめることが出来るので醫學上性慾倒錯症と云ふ同性愛は容易に癒し得、心を變換させるのみならず肉體をも心と同じに變換せしめ得るので前陳のことは當然爲し得る所である、と聞いたが其れは想像による虚偽の嘯か誇大の吹聴と思ふが如何若し果して斯る奇効を例へ僅かなりと奏するなら、私はウイスキーを小カツプに半杯飲むと、直に酩酊赤面して氣持が悪ひ、折角の來客の機嫌を損じ、接待が出来ずして困るから、ウイスキーを小カツプに三四杯傾けても、少しも酔はず、氣持が爽快で居るやうに御療治を乞ふ、併し御療法を受けても、私が望む効力無きものなら、無いと偽らずに眞實を言ふて下さい」と會長は笑を含み黙して之を聴き居りしが、ウイスキーに酔ふ程度を薄らぐることとは成し得と信ず、又前述せられし實例の如きは當然なし得る所で敢て珍らしきことではない、併し受療する其人

の天性が本會の療法をよく感受する性質が高いか、低いかによりて効果の現はるゝことが、現著であり、又顯著ならざることがある、一度試験的に受療を受けて見ると正確に分る、と云ふや、奥さま試験的に受療を需む、依て本會にては其需に應じて直接療法を行ひ終るや、奥さま手提袋の中よりウイスキーの罎を取り出し、直に小カツブに一杯を傾け、雑誌を披き見て休息して居り、時を移せしも一向に酔はぬ、氣持は爽快である、奥さん満面に笑みを含みて膝を打て曰く「今迄私は貴會の療法の効力を疑うて居た、或人には偉大の効果があつても私は罪深い人間で疑ひ深い性質であつて貴會の療法は如何にしても信用されぬから、私には貴會の療法は少しも感じなく効果がないであらうと思ふて居た、其れが豫想以上に効果があつたので、私は非常に貴會療法の効果を眞に確信し、安心を得たので尙進んで貴會の御療法によりて私の一身上の大煩悶を除去して、私の暗い心を明るく導きて頂きたい、其次第は次に申上ります。」

「私は何と云ふ世間知らずでしよう私の本夫は品行方正であるとのみ常に確く信頼して居た、然るに先程親類の家で突然本夫は藝妓を落籍して、妾宅を設けある事を聞き、驚愕と失望の餘り、俄然失神状態になつた、醫師を呼びて手當せし甲斐ありて普通の状態に歸りたるも、其れより酸々たる明月を見ても、爛漫たる櫻花を眺めても、悲哀と斷腸とを増し紅涙に噎ぶのみ、

本夫の舉動に注意すると怪しき節の多い、煩悶懊惱の結果、頭痛がし食慾が進まず、夜熟眠出來ず、悪夢のみを見て居り、此頃は多人數の前に出るのが嫌になり、家政も手に附かず、自殺でもせんか、と思ふ事さへあつた、思案の極、貴會を訪ねしも此事は口に出して御相談を願ふのも恥しく、又貴會療法を受けても眞に効があるか否や、も疑はしい爲に試験的にウイスキーの飲量増加の御療治を受け確に効果を認めしより、本夫の精神を正しく變換し、其行爲も正しく變換する様、遠隔療法を乞ふ、本會にては之に就き最も正確に効果の擧る方法を考察の結果、遠隔療法を行はずして奥さんに催眠術を教授してあげた、催眠術によれば水がビールに飲め、生大根が食パンに食へる、茶碗が雀に見え、死せる母親と嘯が出来る、此不思議の作用を應用して本夫が夜前後を知らずに睡眠して居るとき、本夫に氣附かれぬ様に、本夫を催眠せしめ奥さんは催眠せる本夫に（此例に反對して夫が妻に對して行ふも可）對して「あなたは私一人のみを専ら愛する、妾の顔を見ると不快を感じて嫌になり妾に暇をやる」と熱烈に誠心誠意を罩めて暗示を繰り返して與ふることを三週夜續けたら、其暗示が効を奏して、本夫は妾の顔を見るところと不快で堪まらなくなり、終に妾と手を切つて妾宅を閉鎖した、後夫人は本夫が夜歸りの遅いときは、何處で遊んで来たかを知らんと欲し、本夫が夜睡眠中本夫に氣附かれぬ様に例の

如く本夫を催眠せしめて、今夜は何處で遊びしや、を尋ねると、本夫は顯在精神では云ふてはならぬ、と確く秘し居ることを奥さんの暗示の儘に其遊びし場所なり其光景なりを潜在精神が一々明瞭に其事實を語る、其れを奥さんは聽いて置き、知らぬ顔をして、翌日本夫に對して昨夜は何れにて遊びしやを問ひ、催眠中の返事と異なる點を指摘し、斯々ならんと云ふと、本夫は愕然として如何にして其れが分りしや、に不思議を打ちて問ひしより、「私は良人の幸福出世を神に熱心に祈りつゝ眠ると、靈感で良人の遊び場所が夢に見えた」と云つたら「其れは良人を思ふ至誠が神に通じて靈感となるのである」と大に感心した、奥さんは會心の笑みを包み隠して其場を濟し、尙本夫が婦人と結婚せしとき、本夫は童貞を守りありしや、若し童貞破れありしとせば相手の女性を確めんと欲して或夜睡眠せる本夫に例の法を用ひて之を尋ね、本夫は結婚前は童貞を守りありし事實（此例を反對に夫が妻に對して妻が結婚當初處女にてありしか否かを確むることを得）を確め、奥さんの満悦一と方ならず、斯くて夫妻兩者互に秘密は全くなくなり、夫妻兩者の心は玲瓏玉の如くになり、夫妻は異體同心なりとの諺を實現し、圓滿幸福の明るき家庭となつた、過日迄憂ひに塞がれて居た陰鬱な家庭は一變して、光明と希望に満ちた、清らかな家庭に轉換し、曉望と喜悦に充たされて居る、而して奥さんの子供にて學校の成績

不良の者に、奥さんが斯術を應用して成績を優良ならしめた、との意味の報告書を奥さんは併せて本會に寄せた、又未亡人にして高貴精神療法を研究し、開業して難病者を救ひつゝ、獨立自活しなかなか盛にやつて居る人もある。

(10) 失 戀 病

失戀病治癒法 Ⅱ 懊惱煩悶を欣喜雀躍に換る法 Ⅱ 醫藥湯治無効の戀病氣根治法 Ⅱ 無駄な事に心を苦しむる癖を消す法 Ⅱ

- 一、許婚の大學生急死して失戀に陥り、日々茫然として鬱いで居る
- 一、顔色は蒼白となり兩眼は窪みて瘠せ、歩行は蹣跚として力がない
- 一、時々怒りてハンケチを裂いたり、泣いたりする
- 一、逆せて頭痛がし、食欲は進まず、勉學は手に附かぬ
- 一、形容枯衰、悲痛に絶えぬ風情である
- 一、自殺して此苦痛を免れん、と思ふたことが幾度かしれぬ

此患者は二十四歳の處女で、許婚の大學生が突然病死せし其悲惨の情緒を如何にしても忘れ

ることが出来ず、皎々たる月も、爛熳たる花も悲哀を増すのみ、勉學も手に附かず、詮なき肉體を永らへて、苦悶を續くるより、寧ろ猫不入藥を飲んで、黄泉の世に於て許婚の大學生に會ひ、蓮華の上にて淨く暮さんかと、決心したことも幾度かで、戀しき大學生の幻影を見て驚喜したり、幻聲を聞いて煩悶したりする、其苦惱を其母親見るに忍びず、お醫者に診察を乞ふたり、湯治に伴れで行きしも効能は更でない、効能の無いは當然である、「お醫者さんでも草津の湯でも、私の病氣は癒りやせぬ」と俗歌の通りである、戀病であるから名醫名湯も効はない筈だ、斯る病氣には本會の療法は天下一品にして素的に効果がある、と母親聞き、本會に通信受療を申込み、女學生に勧めて自療法を遵守せしめんとせしも、自暴自棄となり居りて肯ぜなかつたが、再三再四懇に勧めるや、少し宛實行した、すると日一日と顔面も晴やかとなり、動作も快活となつた、胸中の懊惱煩悶は雲霧が自然に消散あるが如く消え去る、其れに力を得て自療法を猛烈に續けるや、懊惱煩悶は全く消えて、欣喜雀躍に變つた、心身は健全となり、勉學に専心一意となり、模範的の女學生となり、女子大學校を優等にて目出度卒業せられた。本會に寄せし報告書中に左の文が在つた「心を苦しめて考へても、何の役にも立たぬ事を何うしても考へずに居られぬ病中のことを、今追想すると馬鹿な事をしたものだ、精神力を浪費したり

精神力を空費することは、金錢を浪費し物品を焼棄するより大なる損害であることを痛切に感じた、今は必要有益のこと以外には無駄の考へは一切せぬ様になつた、早く彼の大惡癖を矯正した幸福は、實に千金の價値がある云々」

(一一) 夫婦不和癖

夫婦喧嘩絶滅法 夫婦和合の秘訣 家庭樂園建設法

- 一、配偶者の氣に障ることを、無意識に口走る
- 一、配偶者のなすことは、總て何となく氣にくわぬ
- 一、心から配偶者を愛し得ぬ、去りとして離婚する勇氣もない
- 一、家業には精を出して働くが、常に陰鬱である
- 一、不感症に罹つて居り、性能が完全でないことがある
- 一、さもない事で夫婦喧嘩を極端にすることがある
- 一、配偶者の情人關係の疑ひが考へる程深くなる
- 一、配偶者以外の異性に對しては愛情が起き戀人が欲しい

- 一、配偶者を喜ばす御世辭は更に出來ず、交際と應接はぜろ
- 一、無邪氣な子供に對する愛情の慰藉で、家庭は持て居る觀がある
- 一、頼みになる人は、肉親にさへ無い、と思はれ前途心細い

此患者は四十三歳の大地主の夫人にして、神經衰弱症にも罹つて居り、性慾衰弱して倦怠甚だし爲に夫婦の愛情薄らぎ、家庭は冷化され夫婦喧嘩が絶えない、夫人に愛嬌が無いから本夫は夫人に飽き、年若な女中を極端に愛する、夫人は其れを苦にして、益々心が拗る、拗るから本夫は益々機嫌を損じて不知となり、家内は阿修羅羅王の集會所なるかの觀がある、併し夫婦仲をよくする薬はない、いもりの黒焼を用ひしも何の効もない、之は精神心靈の作用によりて、心の持ち方を換えるにありと心付き、本會の遠隔療法を受けるや、次第次第と心が清く爽かになり、本夫にも他人にも好感を與へるやうになり、夫婦喧嘩次第に無くなつた、其れで夫婦喧嘩絶滅の法は爰にあると感得し、本會にて教へし攝生的修養法をよく實行し、心身をして一層爽快となし、本夫の喜びは夫人の喜びである、本夫を喜ばせば自然に夫人も楽しくなることを體驗し、「善し悪しは人にはあらで吾にあり人の悪しきは吾が悪しきなり」との和歌を記して壁上に懸け朝夕口唱しつゝ家業に勉勵し、本夫に對して純眞の愛情を捧げしかば、本夫は驚喜

し家庭は愛慾の樂園と化した。

夫婦は異體同心でなければならぬ、夫婦の精力愛情は均衡を得なければならぬ、夫婦一方の精力怒濤の如くであつても、一方の愛情死灰の如くであると調和を失して夫婦は不和となる、實に夫婦和合の秘訣は夫婦とも揃て心身の健全愛情の旺盛にあること、夫婦互に心切赤誠の盡し合ひにあることを體驗せられた、其夫人の隣家の人々先日迄は夫人の家庭では、夫婦摺み合ひの喧嘩をし、悲鳴と罵聲とが聞へたが、今では一變して鴛鴦の琴瑟相和する笑聲歡聲が愉快氣に窓外に響く、との風評を得る幸福の家庭となつた。

(一一) 月 經 痛

月經時の油斷大敵の實例 月經痛根治法 月經異常必治法 月經異常、白帶下、消渴、血道、子宮病、頭痛、冷症、等必治無藥秘密自療法 月經時

妾は月經時には、左の症候を呈して困ります。

- 一、何となく不快で倦怠に堪えぬ
- 一、寒冒に罹りしときの様に氣持悪しく食慾も進まぬ

一、下腹に壓重の感がしたり、疼痛がしたりする

一、時によると頭痛がし、嘔き氣がし、發熱がすることがある

一、稀には乳房、又は全身に痛みを覺えることがある

一、時には病人の如くなり、寢て休まねばならぬことがある

此患者は二十五歳になる良家の處女にて、此病狀を人に嘯して相談することは恥しくて出來ず、月經痛は誰れにもあることかと誤認し、等閑に附したのが手落で、大病人となりし嘯を聞き、月經時の油斷は大敵であることを悟り、婦人雜誌の廣告を調べて月經藥を買ふて窃に服用したが癒らぬのみか、益々重病となり苦悶甚だしき故、母親に嘯して醫師の治療を受けること數ヶ月なるも癒らず、益々重病に陥つた、時に本會の療法を受ければ月經異常は容易に全快することを聞き、本會に郵書を以て月經異常は果して癒るや否やを照會した、其郵書中に貴會にて私の姓名と病名とを他へ漏しはせぬか、漏さるゝと信用が無くなりて困る旨を書き添へあり、本會にては患者の氏名及病名は絶対に他へ漏らさないは勿論、婦人病のことで御照會になりし郵書は一讀後、直に燒棄して仕舞ひ、本會は患者本位で、患者の御爲を圖るのが本會の使命であるから、御安心の上御受療下さい、本會は婦人病患者の隠れた顧問を以て自任して居

る、から何事でも御相談下さい」と返書したら、初て安堵して病氣の原因と前記の症候とを詳しく書き綴りて送られた、而して本會の通信療法を受け初むるや、流石の痼疾も一日一日と輕快し、恰も濡れ紙を剝ぐが如く、次第くと快癒し、殆ど全治するや、其後は本會傳授の攝生法を熱心に實行し、今や月經時にも平常通り元氣潑刺で、家政に勉勵するも疲勞を覺えず心身は爽快となり、容貌は晴やかとなり、態度は快活となり、愛くるしい笑顔の持主となり、ハニカミは消えて大膽となり、交際場裡の花形を以て自任し得るに至つた旨の報告書を寄せた婦人病中最も患者の多き月經異常、白帶下、消渴、血道、子宮病、頭痛、冷症等必治無藥秘密自療法に就ては、以下に項を追うて詳述しませう。

(一三) 月 經 過 多 症

月經過多の容體 月經過多全治法 Ⅱ

- 一、月經の量が非常に多く、且苦痛が伴ふ
- 一、月經時は心がイラ／＼して、落附かぬ
- 一、月經時には頭痛がして逆上る

一、月經時には下腹が痛み、局部が不快である

一、月經時には思慮が浅く、後に悔ゆる事を敢て爲すことがある

一、月經時には頭が重くなつたり、便通が悪くなつたりする

此患者は二十三歳の女子事務員にて、初は月經過多症とも知らずに居りしが、益々其量が多
く、苦痛激しく事務を執り兼ねるより醫師の診断を受け、月經過多症と知り薬療をしたるも治
せぬ、とて本會の通信療法を受け、壹週間を経て本會に苦状を申込みて曰く「御教授の自療法は
私に行ふ氣になれぬので少しも行はぬ、私の病氣には貴會の療法は少しも効がないから受療を
廢める云々と申越した、よりにて本會にては自療法は自分で療治する法であるから自分で實行
せなければ効能は現はれぬ、實行すると屹度癒ると返書したれば、半信半疑にて自療法を實行
するや、非常に氣分が爽快となりしに力を得て、次後熱心に自療法を實行するや、非常に卓効
現れ、身體の調子の狂ひが突然消え、潑刺たる社會生活と夢幻的歡樂生活を味ふ幸福の身と
なりしを喜び本會に向て大に感謝の意を表し、其後尙本會教授の攝生法を引續き熱烈に實行し
たれば全く健全無病となり、月經中と雖も氣持は平常と異らず、仕事の能率も平常と變らず、
元氣旺盛となるや、本會療法の大禮賛者となり、本會へ送れる報告書の中に左の意味の文があ

つた、曰く「妾は初め貴會より自療法を教授せられしも、少しも實行せずして効見えぬから貴
會療法は無効なりと自己一人て決めて自療法を少しも實行せなんだなら、全治の幸福を得ら
れざりしを、遠慮なく苦状を申述べて、効果の現はれざるは實行せぬからであることを訓戒さ
れ、氣附きて自療法を實行して大なる効果を認め、引續き熱心に自療せし結果、全快の幸福を得
た、實に喜しい、今より考へると實行せずして効果が現れぬとて、苦状を貴會に申込みしは、
之が即ち月經過多症の容體の一で、ヒステリーの行動でありしことを今は自覺し、誠に申譯
がない云々」とありし。

(一四) 月經過小

月經過少の病狀 月經過少必治法 家庭享樂陶粹法 Ⅱ

二十五歳になる商店の主婦月經過少を感じしも、左まで心配すべきことにあらざるべしと思
ひ、等閑に付し置き、之が原因で身體に異常を來し半病人となり、窃に賣藥を試みしも、治癒
せず、専門醫師の診療を受けるや、一時は輕快したるも、今では元以上の重症となり、月經時
の苦痛甚だしく、顔色蒼白となり、氣力及抵抗力なく、如何にも重症者の態を呈し 主婦とし

ての勤めも出來ず、前途を悲觀せる折柄、本會の療法を受ければ必ず治ると聞き、上京して本會に來り受療せんとせるも、患者は地方に在住し居り、東京より遠隔地に居住せるを以て、受療の爲に上京することは家庭の事情が許さず、其れで本會の通信療法を自宅に居り、家政を見つ秘密に自療法を熱心に實行したら、濡紙を剝すが如く日一日と氣分は輕快し、月經は順調と成り、顔色の蒼白は消えて艶が若々しく淡紅色を呈して美しくなり、目元も涼しく耀きを増し精力も若返りたれば、尙一層健康を増さんと欲して本會教授の攝生法を引續き怠らず實行したれば、益々心身爽快となり、元氣は旺盛となり、家政に勉勵し愛慾の樂園に陶醉する幸福の身となつた。

月經異常の病人と云ふ程ではないが、月經中何となく不快感が伴ふ婦女、本會に之が自療法の受療を申込み、自療法を嚴守して月經時に於ても氣分を爽快にし、仕事の能率に變化なき様にし、病氣の發生を豫防せらるゝ方多し、之は實に獎勵すべき善事である、病氣に罹りし後に治療し健全とすることは困難であるが、病氣に罹らぬ前に豫防し健康を續くることは容易にして、効果多大であるからである。

(一五) 月經不順

月經不順の症狀 月經不順根治法 發情消情自在秘法

- 一、月經が不順で月初め、又は月半にあることがある
- 一、月經が月の内になく、二ヶ月目、又は三月目にあつたこともある
- 一、月經の量が過多のことがあり、又は過少のことがある
- 一、月經中は下腹や腰部に壓重の感あり、頭痛がし、眩暈がして、身體倦怠を來して、仕事に手がつかぬ

一、月經中は少しの事が心配になり、又は激働すると目に見えて悪い

一、月經と月經との間に、水様性の粘液分泌物が下りることがある

一、月經不順に餘病併發すると大病人となると聞き、心配でならぬ

此患者は十九歳の女學生にして、月經中は前記の症候を呈して、心身不快にして勉學の能率更に擧らず、因つて賣藥店より月經薬を買ふて服用したら、却て下腹が痛み、食欲進まず、氣持悪く、其れで月經の不順は少しも癒らず、困却しつゝ荏苒日時を經過した、折柄本會の療

法は月經不順を初め、婦人病一切に對して奏効は神の如くで、副作用は絶對になく、恒久的治療の効果著しきことを聴き、安心して、本會に通信療法を申込み、本會傳授の自療法を熱心に根氣よく自療したら、次第次第と氣分がよくなり、身體中の惱みの點は次第次第に消えて無くなり、月經は順調となり、月經中も平常と同じく心身は爽快で、學業に勉勵し得る幸福の人もなつた、其嬉しさの餘り、本會に郵送せし報告書中に曰く「貴會の療法によれば、精神の持ち方が一變し従て肉體も一變して健全となる、故に貴會の療法によれば發情消情も、食欲の進否も自在であることを體驗した、月經不順位は誰にもあることと思ふて、輕視したのが手落で實に女が下の病に苦しむ其苦悶は、口にも筆にも盡せぬ、心配の餘り肉體の瘦せること恰も飽で肉を削り取らるゝが如く、見る見る肉體は瘦せ衰へる、鏡面に向て我顔を見ると淋しくて凄みがある、之では良縁は覺束ないと、前途を暗く考へては泣いた、此病苦が御治療で歡樂に代り、回春の喜びに浸り、校庭では運動を人以上に行ひ、講堂では人以上に熱心に聽講して、毫も疲れず始終笑顔を以て爽快に勉學を續くることを得る愉快、慶賀の至り、御禮の申し様もない」云々とあつた。

(一六) 月經閉止

月經閉止の症狀 月經閉止即療法 懷妊の疑惑一掃法

- 一、月經が四ヶ月閉止して居り心配でならぬ
- 一、身體倦怠を來たし、氣分悪しく、仕事の能率が擧らぬ
- 一、便通が悪く二日目又は三日目にしかない、併し小水は近い
- 一、痲氣と寸白の氣味があり、血色が悪い
- 一、常に頭が重くて時々痛み、且手足が冷へる

此患者は二十六歳の婦人で、月經閉止を氣に痛むこと非常で通經の賣藥を連用するや腹痛を起し不快を増し、局部痛み、働けなくなつた、のみならず、更に效が見えぬので懷妊に非るかとの疑惑を起して深刻に懊惱し、本會に遠隔療法を申込み、受療一週間に於て確に流經あり、其効果の顯著に感喜せられ、苦惱の顔色は忽然晴やかに變つた、今の今迄悪夢に惱まされ煩悶懊惱して居たのが、俄然其惡夢より醒め、あゝ今のは夢でありしかと、思ふに等しかりし状態にてありし、赴きを其報告し越せり。

(一七) 白 帶 下

白帶下の原因症候 || 白帶下全治法 ||

白帶下は膈部に細菌が附着し、子宮に浸入し蔓延し子宮を侵し、糜爛し腐敗膿が下るので、重くなると血帶下となる、白帶下の原因は多くはゴノコツケンと云ふ淋菌の感染による、其他の細菌が感染し蔓延して子宮諸機關を犯し、炎症又は加答兒症状を起して白帶下を生ずるものがある、此療治を怠ると細菌が益々繁殖して、患部の腐敗破壊次第に増大し、取り返し附かぬ大病となる、白帶下に悩みし一婦人本會に通信療法を申込みし、郵書に曰く。

妾は二十六歳になる職業婦人に候が、白帶下に悩み候、其要點を左に申上候。

一、發病後四ヶ年間になる難治の白帶下、既往療法は悉く無効

一、初め水様の透明の白帶下があり、變だと思ふて居る中に、玉子の白味の様な粘りがあるのが下りたが、人に隠して窃に賣藥を用ひて居る中に、益々重くなり、茶褐色又は黄色を帯びた白帶下が下りたが、又養生を誤り、重くなりて今では綠色をした膿汁が下りる。

一、顔色は蒼白となり、全身が倦怠して仕事に手につかぬ

一、食欲減退し、局部に不快な疼痛がある

一、頭の毛に艶がなく抜ける、精力は大に弱り、不感性に罹つて居る

一、白帶下が原因で大病人となつた人があると聞き、不安に絶えぬ

患者は前記の症候書に尙書き添へて曰く「此病氣を早く全治せしめぬと、一生取返し附かぬ大病となると云ふから、早く全治せしめて下さい、殊に良人の愛情は熱烈火の如くであるも妾此病氣に罹つて居る爲に、良人の愛情濃やかなる程、悲痛を感ず、早く癒して健康體になり良人に満足を與へ、主婦の勤めを完全に果したい」と書いて通信療法を申込みた、依て其容體書を考察し靈感により患者の精神を分析し、原因を探求したら、花柳病の感染にあるを確め、其原因を治癒し、而して現在症たる白帶下を全治し、進んで攝生法遵守の精神分子を働かしむる自療の方法を教授したれば、患者は熱心に之を遵守するや、速に效驗顯はれて次第次第と健康體となりたれば、次後は尙本會教授の攝生法を家業の餘暇に實行し、益々健康の度を高め、嬉しさの餘り本會に寄せし報告書中に左の意味の文ありし「過日迄は青菜の様な青い瘡癩にてありし私は、今は林檎の様な赤い豊頬となり、生きくした顔となり、元氣は潑漑となり、動

作は快活となり、精力は旺盛となり、如何に家庭の業務が多忙で、早朝より夜深更まで劇務に従事しても、疲労困憊を知らなくなり、家庭の享樂を飽喫する幸福の身となり實に嬉しい、此分では大に活動を續け、長生をなし、主婦の勤を完全に果し、本夫に満足を與へ、子女をも成人せしめ、幸福ならしむるを得るのみか、社會奉仕に盡力するを得む」云々と報告かたく謝状を寄せた。

(一八) 赤 帶 下

赤帶下の原因容體ニ赤帶下必治法ニ健康感陶酔歡樂法ニ

- 一、多年白帶下に悩み、種々の療法をしたが癒らず、赤帶下となり、苦しみ、ヒステリーが併發してゐる
- 一、足腰が冷へたり、痺れたり、頭痛がしたり、眩暈がしたりする
- 一、根氣無くて、仕事に倦み、下腹がシクシク痛みたり、筋張りたりする
- 一、小便は近いが、便通は二日目又は三日目に一度しかない
- 一、氣が鬱ぎ、取越苦勞をし、疝が高ぶり、怒り易い。

一、顔色蒼白となり、元氣がなく、月経は不順で耳鳴がする

一、肩は凝り、背は痛み、逆せて頭の毛が抜ける

一、局部が痛み腫れ爛れ、月経時には特に痛む。

一、下腹に塊が出来、胸先に差込があり、且不感症である

此患者は、工場主の主婦にして、三十五歳、重症にして瘦せ衰へ、苦痛に堪へず寢てのみ居り、本會に出張治療を乞ひしより、本會長其患家に出張して病床に臨み検診するに、赤帶下を起し生殖器に障碍あるを苦にして、ヒステリーを併發し、悲觀と憂鬱に沈みて受療を肯せず、併し折角遠路を態々行きし故、勸めて治療し終るや、今迄永い間苦惱し居りし其苦惱が輕快し非常に明るい氣分になり、前途に確に光明を認め、翻然として喜び、繼續受療を懇請せしより、會長は一日に一回宛引き續き出張し治療するや一回毎に快方に向ひ、六回の治療にて今迄長い間寢てのみ居りし病人が、心よくなつたとて突然起き上り、庭園の掃除を始めたのに家族は驚喜し、次回よりは本會に自動車にて通療し、前後十五回受療し、殆んど全治した、其後は本會にて傳授した自療法を自宅に居り乍ら熱心に永く修養せし結果、益々健康の度を増し本會の受術を初めしより僅か二ヶ月にして全く無病健全となり、元氣百倍し、活氣は横溢し、

健康愛に陶醉し、限りなき人生の歡樂を恣にする幸福の身となつた。

(一九) 消渴(淋病)

消渴の原因症候 Ⅱ 消渴(淋病)根治法 Ⅱ 性慾減退回復法 Ⅱ

症候

- 一、消渴に罹り尿道口が赤く腫れて痛み、濃い膿が出る
- 一、小便をするとき熱湯が尿道を通る感じがして苦しい、且下腹にかけて非常に痛む
- 一、食慾が減退し、元氣が沮喪し、辛い物と運動とは現に悪い
- 一、顔色が眞青で病人らしい、何處が悪いかと人に尋ねられて困る
- 一、尿をコツブに採り見ると混濁して居る

此患者は二十五歳の老女學生であるが、其知人に消渴が元で關節炎に罹り、歩行不能となり病臥して苦惱し居るものあるを知り、己も斯くなりては困ると大に恐れ、早く根治せしめんと焦りしも容易に治せず、慢性となり、病菌を傳染されし不覺を思ひ出しては、窃に悔恨の泪にくれしこと數々ありし、顔色憔悴して如何にも病人らしい、其れで本會に通信受療を申込み

自療法を實行すること僅か一週間にして、放尿時の激痛が緩和されしに力附いて、自療を根氣よく續くるや、放尿時の苦痛は全く無くなり、膿も無くなり尿は殆ど透明となり、僅に菌糸を認むるのみとなつた、其後尙家政に従事しつゝ、本會教授の攝生法を根氣よく遵守したれば、日に増し強壯の度を増し、放尿時に於ても何等の異状を感じず、尿をコツブに盛り見るに全く透明にして、菌糸を少しも認めず、過日迄の意氣の消沈は一變して、生氣潑刺となり、天與の機能に享樂する幸福の身となつた、長く性病に悩みし人は全治しても尙性能は減退して不感を伴ふものなるに斯る形跡なく回春の喜びに浸る幸福な人となつた、本會の療法により、ゴノコツケンと云ふ病菌が絶えるのは、心靈力によりて血液中の白血球の働きを旺盛にして、殺菌力を強大にし、劇薬も及ばぬ作用を致すからである、無形の心靈力によりて潜在精神の分子を働かして、治癒するのであるから、粘膜を刺戟せず、絶対に無害にして効果は顯著である、消渴菌即ちゴノコツケンが男子に感染すると淋病となる、淋病は本會の實驗によると消渴に比して治癒するに容易である、治癒困難の慢性消渴を斯く迅速に癒し得しことは好箇の參考資料である。

(110) 比斯的里

ヒステリーの原因容體 高貴精神心靈療法輕度患者治愈例 悲觀絶望樂觀享樂に變る法 比斯的里 必治法 Ⅱ

症候

- 一、父親の神經質を繼承して、生れつき神經質である
- 一、病氣の原因は戸主の事業の失敗より、家庭に悲惨事が起きたのを非常に心配せし結果である。
- 一、些細な事に興奮し、精神を苦しむる
- 一、時には精神遲鈍となり、又痴愚となることがある
- 一、身心衰へ元氣なく如何にも重病人の如くである
- 一、半身は手足とも麻痺し、時には手足が痙攣する
- 一、皮膚の感覺に障害があり、且食欲が不進である
- 一、生殖器の機能が弱く、不感症にも罹りて居り、非常に疲勞する

一、記憶力は無くなり、身體は瘦せて體重は著くし減じた

此患者は會社員の妻にして二十九歳、實母に伴はれて初めて本會に來りしときは、如何にも病婦の顔貌と態度にて曰く「妾の夫はよく妾の面倒を見て呉れるが、妾の病氣が癒らねば子供の前途も危まれ、夫の親切も何日迄も永くは續くまいと思ふと、前途が不安でならぬから、其苦を逃れんが爲に、自殺の外ないと決心して居る」と血色を變へて訴へた、依て必ず全治せしめ、健全無病の人としてあげる、と云ふても、氣休めを言ふと思ふ面地にて、何を言ふても信ぜぬ態度にてあり、初め三回受療せしも效更に無い、とて爾後受療を廢めると主張して聞かざりしを、本會は患者の實母と共に勸めて受療を繼續させ、受療六回を終るや、俄然偉効顯はれ、數多の苦惱を忘れるや、非常に驚喜し、進んで尙三回受療し清新なる容貌の持主と變り態度は爽快となつた、其後は自宅に在て本會教授の自療法を根氣よく實行したれば、次第々々に健康の度を増し、働くことに興味を覚え、家政を整頓したれば、本夫は嬉しくて惠比須顔を、夫婦の愛情は頗る濃厚となり、先日迄悲觀に充ちし家庭は感謝と愉快に充ちた家庭と一變し、混々として盡きざる愛の泉の主婦となつた、患者は全快せし嬉しさより、左の意味の感謝狀を本會に寄せた、「悲觀絶望の淵に立つて、今にも濁流に身を巻き込まるかと思ふた妾が、

歡天喜地となつた、のは貴會の御蔭である、病苦に惱める其時を追想すると、思はず戰慄致します、效能顯著なりと云ふ種々の藥を服用しますと、病勢は寸退尺進、一喜十憂を繰り返し、日々病勢は募り、蒼白の顔色、疲瘠の肉體、生きた幽靈となつた、妾は本夫に對して相濟まぬ、愛子の生長を見ずして、此儘黄泉の客となるのか、どうせ黄泉の客となるなら、寧ろ自殺の早道を取るのが増した、と幾度か思ひ、天を怨み人を怨み、不平をのみ起し感謝の念少しも起きぬ、罪深き悪人にてありし時に知人が貴會の療法を勧めたが、妾は肯ぜなかつた、博士の藥でさへ癒らぬ此重病が、其んな事で癒るものか、と豫斷して顧みなかつた、日を経て自分から考へ直したどうせ死ぬ身だ、念の爲めだ、癒らずとも元だと思ひ、自棄氣分で貴會の療法を受けた、其れがどうでしょう、貴會の御療治で永い間の苦惱が消えて、今迄に曾て覺えぬ爽快味を感じた、其時は孤立奮闘絶望に陥りし際、俄に百萬の援兵が來た心地にて、力強くなつた、先づ安心だ、之で確に健全無病になると信じた、其後は御教授通り、自宅で一生懸命家政の餘暇に自療的修養法を行ふたら、一日に次第々々と健康の度を増し、今は大飯を喰ふ様になり、身體に力が付き、働く程愉快を感じ、健康愛に心ゆく迄浸る享樂の人となつた、云々。

(二二) ヒポコンデリー

ヒポコンデリーの原因症狀 夫婦相互の憎嫌熱愛に變る法 二 ヒポコンデリー根治法 二

症 候

- 一、醫師はヒポコンデリーと診斷した、藥を飲んでも效がない
- 一、原因は家庭に漸にならぬ悲哀事があつたのに基くと思ふ
- 一、生殖器衰弱して機能に障害があり、不感にして疲勞する
- 一、嫉妬強く、良人と交際する婦人を見ると不快で女中をさへ愛せぬ
- 一、感情の變化が甚だしく、人の氣を損することを敢て言ふ
- 一、勝手氣儘が強く、意地が悪く、悲觀憂鬱である
- 一、頭重、頭痛に悩み、少しの事で甚だしく疲勞し、忍耐心がない
- 一、目まひがして逆上し、多人數の居る席には行けぬ
- 一、身體は瘠せ衰へ、顔色は蒼白で、髪の毛に艶がない
- 一、月經はいつも不順で、月經中は甚だしく氣分が悪い

- 一、夜不眠でありし翌日は、頭が重く氣持が一層悪い
- 一、嗅覺が非常に鋭敏で、少しの臭氣が氣になる
- 一、身體各部が轉々して痲痺したり、熱くなつたり冷くなつたりする
- 一、食慾更に進まず、便秘し、少しの動作にも倦怠する
- 一、家族の者のする事、言ふ事、何でも氣に喰はず、不平でたまらぬ

此病人は三十一歳になる官吏の夫人にして、種々の療法を試みしも更に效なく、夫婦の愛情は消えて家庭は冷化し、夫婦は互に憎嫌し合ふ不幸を嘆じ、本會に來り療法を受けんと思ひしも、地方在住故、上京して本會に來ること能はざる事情があり、自宅に居りて秘密に本會の遠隔療法を受けて、熱心に自療し、次第次第に快方に向ひ、終に長年月悶えに悶えた惱みを、悉く忘れ、性的不満も全く根本より除かれ、愉快で爽快で堪まらぬ健全體となつた喜びの餘り、寄せた禮狀の中に、左の意味の文句があつた、「不治の病氣と思ひ、失望して日々悶えに悶えて泣いた、私の肉體は、恰も鉋で削らるるが如く見る／＼瘡せ衰へ、良人に對する愛情は消えて憎嫌となり家庭は人性の地獄の感があつた、其れが意外にも貴會の遠隔療法で全治し、今や鴛鴦の琴瑟永へに相和して居る、其喜びは實に無限で、天に喜び地に喜びて、妾の魂は雀躍して

居る、婦人病は難病だ、不治だと思ひ、深い憂愁の中に日を送りし昔日を追想すると、其れは効力のない療法に心酔して居つたからである、貴會の遠隔療法を早く受けて、早く強健體とならざりしことを後悔して居る、云々」因に云ふ感謝的報告書を本會に寄せるは嫌やとか恥しいとか思ふ心理状態の病人は癒るのに手間取れる、又家庭内に其う云ふ心理状態の人が居ると治療の効力を減殺される)

(二二) 流 産 癖

流産癖必消法 II 妊婦健身の秘訣 II 性器保健法 II

三十二歳になる裁縫女教師、生來性器虚弱にて流産癖に罹り、今迄に二度流産し、前途を暗く思ひ居りし折柄、妊娠せしより、又々流産しては困ると苦惱し居りしとき、本會の療法は流産癖を消失せしめ得る絶大の偉効あるのみか、妊婦健身法性器保健法として他に類がないと聞き、本會に通信療法を申込み、自宅にて秘密に自療法を實行したれば、懐妊に伴ふ氣分の不快が消失して、氣持は爽快となり、働いても疲れなくなり、食慾も進み夜は夢を見ず熟眠し得、満月迄無事で平産し、母子共に健全であり、天賦の母性愛を心ゆく迄發揮し得る幸福の身とな

り、歡喜に堪へず、本會に報告した郵書中に、左の意味の文見えたり。

「妾は身體弱く流産が續きしより、姑は將來を案じ今回又流産する様なら後繼者は得られず家系斷絶するから、離婚さすと言ひしことあり、よりて流産を切實に心配し、種々の賣藥を飲んで健全となり、此癖を矯めんと焦慮せしも、健康勝れず、不幸の淵に沈まねばならぬか、と窺に嘆いたのが、御治療の御蔭で心身強壯となり、平産し母子共に健全なるを得て、姑の憂ひを除き、良人を安心さするを得たるは實に嬉しい、之は他に絶對的に類のない、貴會獨創の新療法の賜である」云々との報告を兼ねた禮狀を贈られた。

(一三) 膀胱炎

膀胱炎根治法 醫藥無効の生殖器病確癒法

二十八歳になる名譽職の夫人、重い消渴に罹り、其れが原因で膀胱炎を患ひ、悲惨の狀態となつた、初め消渴に罹病するや、巷間の賣藥を購ひ密に内服し、挿入し、又は洗滌したが、家庭の事情上病氣に悪い事を斷つことが出来ぬ、爲に輕快もせず次第に重くなるのみ、著名の病院に入院したり、此病氣に效能著しと云ふ温泉に長く入浴し、大に輕快したが、家庭に戻るや

病氣の爲に悪いことを斷つことが出来ず、又々病氣は重くなる、御祈禱をして貰ひたり、八卦を見て貰ひたりしたが、少しも治癒せず、治する方法も見當らず、益々重症となり、放尿時の苦痛は實に悲惨で身を切らるゝ如くで、血膿を漏らす、其れが本會の通信療法を受くるや、一日と輕快し、終に苦惱は春雪の消ゆるが如く根跡を止めずして消散し、靈妙なる回春の喜びに浸るを得、歡喜の餘り、本會療法の效力を激賞して曰く「貴會の療法によると、醫藥無効の生殖器病が確に治癒さる、彼の營利的の類似療法と異り、貴會にては人類救濟の一大理想の下に、邁進せる深遠の抱負の賜である、妾は生涯暗い悲惨な人生を送らねばならぬのか、と嘆きしが今は根治して明い歡樂の生涯を送ることが出来る、限りなき喜び例へん様もない」と感謝的報告書を寄せた。

(一四) 膀胱癌

膀胱癌の症候 膀胱癌全治法

五十二歳になる會社員の奥さん、消渴を患ひ、慢性となりて十五年間も苦しみ通し、其れが元で膀胱癌に罹り、身體瘦せて病床に横たはり、非常に苦惱し、咽喉は乾はきて呻吟せり、初

は開業醫にかゝりて居りしが、膀胱癌であるとの診断が附かず、膀胱結石だと誤つた診断をし誤りし療法のみをして居り、最後に醫學士の診断で膀胱癌と判つたときは、既に不治と定まつたときである、本會に患者の家族來りて出張治療を乞ふた、本會にても膀胱癌は全治せしむることは困難であるから、膀胱癌を全治せしむる治療は御断りした、すると膀胱癌が根治せずとも、患者に安心を與へ幾分にも苦惱が減れば望外の幸福であるから、是非治療を乞ふと、懇請して止まざる故、本會長出張し、患者を見舞ふた、所が之は重病だ。大醫が死を宣告するの無理はないと思ふた、然し今迄數多の療法を行ひ盡して効が更になのであるから、本會の療法で癒らねば死ぬのである、と思ひ詰め、非常の決心と期待とを以て熱心に本會の治療を受けること三日にして、僅に曙光を認め、附添人一同は雀躍して歡喜の色を示した、爾後隔日に出張し、出張毎に二回宛施術し前後累計三十九回治療したら、次第次第と快方に向ひ終に不思議や全快に近づいた、其後は本會にて教授せし自療法を患者自ら日課として凡六ヶ月間熱心に實行したら、全く健康體に復活した、斯る重病が全治し家庭愛に浸り、若返り青春的活動旺盛となりたのは、本會にても實は意外で、不思議に思ふて居る、此事實を知りし人は、本會の療法に對しては如何なる難病でも、不治と云ふ文字の必要がない、と迄過賞するに至つ

た。

(二五) 陰 瘻 瘻 瘻

生殖器病は極秘必要の所以 陰瘻瘻根治法 Ⅱ

二十七歳の處女陰瘻瘻にかゝれり、陰瘻瘻は普通初めて良人と見ゆる時に、何かの原因で起き苦痛を感じるものであるが、患者は未だ曾て男子に見えしことなきに陰瘻瘻に苦めりとて、本會に通信治療を乞ふた、其郵書に「妾の村に婦人病に罹り、極々秘密に醫師の診察を受けた娘があつた、其秘密が漏れて村中の評判となり、其娘に結婚の嚙があつても、婦人病に罹りしことが知れて、婚約は何れも結ばれず、終に婚期を失し悲觀して自殺した娘がある、妾は其れに鑑み、妾の病氣が村人に知れぬ様に、秘密に貴會の療法により全治したく、父母に相談した處父母は許して呉れぬ、再三泣いて父母に頼んだら、父母から大に叱責せられた、依て之れ迄と思ひ、自殺せんとしたら、父母は其れ程迄に思ふなら、とて許して呉れたので御治療を乞ふ次第である。何卒極秘にして下されと、本會は極秘にしてとの申添がなくとも當然極秘を守る」旨を返事せしかば大に安堵し、本會傳授の自療法を熱烈に實行するや、效果滅法に現はれ、自

療半ヶ月にて根治し、全く健全體となり、隣人にも何人にも其秘密を更に知られず済まし、今や良縁を得て良人の暖かき愛情に心ゆく迄浸り、幸福に圓滿に暮されて居る。

(二六) 腔 炎

腔炎の原因症候 腔炎必治法 色慾の餓鬼愛慾の神の罰

古語に男女七歳にして席を同ふすべからず、瓜田に履を入るべからずと、男女とも物心附てより後は、決して男女各一人宛にて席を同ふすべきものでない、異性は決して共に近寄るべきものではない、異性同席し一方の意を他方にて排斥したとて、悲觀し懊惱したり、憤怒し復讐せんとしたり、又異性兩者の意思投合したりとせんか、其れが終生其人をして、拭ひ去ることの出来ぬ、悲哀の種子を植付けしこととなる、何にしても瓜田に履と、男女の同席は災ひの根源である、此根源に觸れし報ひとして、主人が性病に罹り、其れが妻君に感染し家庭をして悲惨化せし例は到處にある。

印度教に迦摩と云ふ愛慾の神がある、佛教では迦摩を色慾の餓鬼と稱し、色慾を卑み色慾の慎むべきを教へ、若し其禁を破ると恐ろしき靈罰を科せらる、新聞の雑報に色情の爲に身を誤

りし事實を挙げ、後車の戒めとしてある、此戒を破りし應報として焦熱地獄の苦境に泣き其罪の償ひを社會に提供しつゝある。之れ皆自業自得である。二十五歳の農婦腔炎に罹り病狀を詳記して通信療法を申込んだ、其書中に左の文が在つた。

「腔炎に罹りし原因は、本夫より淋毒感染したのによることは、醫師の診断にて知り候、陰部は充血して赤く腫れ上り、糜爛し、粘膜様のももの又は多量の膿様の分泌があり、灼熱様の痛みを發し、顔色は眞青となり、身體衰弱し、秘結し、神經が過敏となり、少しの事に怒り悲しむ依て種々の醫藥療法をなしたるも根治せない、貴會の療法は醫藥無効の病氣に妙效ありと聞き通信療法を申込む云々」と依て本會にては其症候檢診の結果自療法を記した書を送るや、其書を一讀したのみで斯んな事で癒るものか、と思ふて其書を本箱の底に仕舞ひ顧みずして居た、處が益々病氣は重くなり、苦痛は劇しくなるや、苦しみの餘り、本會教授の自療書を出して讀み實行したら、大に輕快したのに力を得て、熱心に實行するや、次第に快方に向ふたが克己心なくして又忽にして自療法の實行を廢めた、すると又發病して苦惱に堪えぬ、然し實行の勇氣と根氣がない、其れで思ひ切て上京し、本會の直接治療を受けること九回にして、前記の悪い點が次第次第に悉く取れて、健全無病となるや、喜悅の餘り本會に送れる郵書中に「貴會の

高貴精神療法によりて強健となり、病中の涙眼は變じて今や明眸となり、愛慾の樂園に飽喫する幸福の人となり、初めて悟つた、主婦の笑顔は家庭の圓滿の動機であることを、曩に病中に於ける良人の不機嫌は、妾の造りしものであることを、良人をして家業に専心ならしむるも、花柳界に遊蕩せしむるも、皆主婦の取りなし如何にあることを實感し、病中は夫婦同居が何より辛らかりしが、健全となると夫婦同居程愉快なことは他にない云々」との報告あり。

(二七) 陸加答兒

陸加答兒の症候 陸加答兒根治法 性的不満足去法秘訣

症候

- 一、陸加答兒にかゝり、局部炎症を起して糜爛す、性的不満足に堪えず
 - 一、便秘して食欲進まず、神経過敏となり、局部に異臭あり疼痛甚だし
 - 一、左もなき事が氣に懸りたり、怒つたり、悲しんだりする
 - 一、夜安眠出來ず、根氣喪失し、不安に堪えず、前途悲觀する
- 此患者は二十九歳の魚屋の主婦にして、此病氣に罹りしも人に隠して賣薬を用ひて居りしも

治せざるのみか重症となつた、其れで醫師の診断を受けたら、醫師は其實薬は殺菌力の強き薬劑であるのを無暗に、多量用ひし爲に、粘膜上皮細胞を破壊したのである、と聽いて驚き其醫師の治療を永く受けしも一進一退で全治せず、貴會の通信療法を乞ふ所以であると訴へた、患者本會教授の療法を實行すること一週間にして、忽然と精神の興奮鎮靜し、不安除かれたれば聲を發して泣いた、其れは今迄名薬を飲み、名醫にかゝりても寸効だもなく、不治と思ふや、本夫も妾が病身にて主婦の勤めも出來ず、苦悶の顔のみして居る妾に倦きが來て、色の失せし花を棄て色の盛りの花を需めんと焦せる、本夫の動作ありあり目に見え、妾は子供二人を殘して離別せらるゝのか、と窃に涙を流して悲しみし其病氣が、突然輕快して病苦は消へ去り前途に光明を認めしより、此分では本夫の信頼を得て圓滿の家庭を作ることを得、との確心を得られた、即ち悲觀は一變して樂觀と代つた、其嬉し泣きである、患者は勇み進んで引續き熱心に自療し、尙本會傳授の修養法を長く自修するや、夜は夢を見ず快眠し得、體重を増加し、性的障碍は消えて満足を得、心身爽快となり、本夫をして満足せしむる秘法を握り、夫妻共に家業を熱心に働いて居る、家庭の幸福は夫婦揃つて強健なるにあり、夫婦の一方何れかが身體虛弱なれば家庭愛は消滅し、家運は隆盛なるを得ざることを痛感した、云々と報告書中にあり

(二一八) 子宮癭

子宮癭の容體 子宮癭必治療法 子宮病根治法

症候

- 一、下腹より局部へかけ引き吊りて痛み苦しむ、醫師より子宮癭と診断された
- 一、頭重頭痛がし、肩が凝り、眩暈がし、足腰が冷え、常に不快である
- 一、小水近くして耳鳴がし、気分がいつも悪く、何事をも悲観する
- 一、氣は鬱ぎ、逆上し、動悸息切がし、夜は不熟眠で、月經は不順である
- 一、性慾は在ても性力がない、且不感性に罹り極度に疲勞する

此患者は三十二歳になる洋服裁縫師の夫人にして、罹病當初子宮病に悩み、夫の愛が苦痛を感ずる症候故、誰にも嘸せず獨り窃に苦惱し居り、賣藥を密用して等閑に附したのが手落で、終に重病となり、名醫と云ふ名醫にかゝり、又専門病院に入院せしも、病勢は一進一退で更に効がない、其れで非常の決心をして、此上は神に縊り神の御力に頼りて全快せん、とて神信心

を朝夕怠らずなしつゝ、本會の通信治療を受け、根氣よく自療するや、主なる症状は次第に消えて、苦痛は全く無くなり、子宮病は根治し、健康愛を味ふを得、大に力附いて、尙本會傳授の自己攝生法を厳守することを終生實行せんとて、勵みて行ふや、卓効益々現はれ、眞に健全無病となり、生命の根源である元氣が横溢するや、生殖器能旺盛となり、色艶もよくなり、本夫と共に人性を享樂し、快味を飽喫し、家政に勉勵し、玲瓏玉の如き、人の羨む圓滿の家庭を作るに至つた。

(二一九) 子宮頸管加答兒

子宮頸管加答兒必治療法 憎妻愛妻に變る法 性慾煩悶解決の鍵

二十五歳の鐵工場主の妻、子宮頸管加答兒にかゝり、良いと云ふ好い療法を行ひ盡せしも、總て無効に終り、又本會の療法に類似せる療法をも受けしも、何等の効が無く馬鹿を見た、とて懊惱煩悶の末、前途を悲觀し、遂に死を決せんとした際に、本會の療法は世間に有り觸れた、心靈療法精神療法の類に非ずして、絶対に追従を許さざる新治療界に於ける明星であり、婦人病に對して素敵に効果あることを聞き、本會に來りて受療せんと良人に乞ひしも、家庭の

事情上、良人は之を許さず、試験的の意味で半信半疑で良人には秘密に、本會に遠隔療法を申込み受療するや、次第次第に輕快し、爽快な氣分になり、確に前途に光明を認めしより、本會の療法を非常に信頼し、引續き受療するや、頭腦は明晰爽快となり、生殖器能の障害、全く消滅し健全無病となり、性的に若返り生氣潑刺となるや、先程迄本夫より何事に就ても憎妻扱ひされたのが、今では一變して萬事に就て寵妻扱ひをさるゝに至つた、嬉しくてたまらず、本會への報告書中に曰く「先日迄良人は妾の色の失せたに倦きが來て若き色の濃き花を折り手活けん」と焦る行動が歴々と見えた、其良人が妾が強健となり、永遠の青春を握り、主婦として良人に満足を得せしむるや、良人は歡喜して妾をのみ熱愛するに至つた、妾囊に重い生殖器病に罹り良人に心配と迷惑とをかけ、家庭愛を失いて狂亂の態となつた、病中を追想すると其悲惨、其苦惱が、我身に答へて慄然とする、其慘狀が貴會の療法によりて歡樂に變つた、其御恩は死すとも忘れぬ、性慾煩悶解決の鍵は即ち貴會の療法である、華族方や學者方が貴會に對し絶大の信用を有する所以が首肯さるゝ、云々」

(三〇) 子宮内膜炎

子宮内膜炎の原因症候 || 子宮内膜炎必治法 || 變態性慾矯正法 ||

某紳士の夫人四十一歳は子宮内膜炎に罹りて下物があり、足腰が冷え、下腹が痛み、重苦しくして、月経量が多くあつたり、長引いたりし、身體が瘠せて氣が鬱ぎ、顔色青く、活氣なく如何にも病人らしい、其原因は淋菌の傳染によるに非ずして、月経中の不攝生による、其婦人は金持であるから、名醫と云ふ名醫にかゝり、良いと云ふ好い療法をしたが、全治せず、貞淑にして美貌なりし患者は、今や枯葉落日の觀ある淋しい醜貌となるや、本夫よりも疎んぜられ生甲斐もなき故、早く全癒せしめたいとして、本會へ通信受療を申込み自療を續くるや、次第次第に失ひたる精力は補給され、生殖器能復活し、血色もよく元氣もよくなりしより、大に力附いて尙本會傳授の自療法を根氣よく實行を繼續したれば、春雪が日光に照されて消ゆるが如くに、病氣は全く消えて根跡なく、色艶の良い福々した賢夫人となり、家政を整頓し、性愛の雰圍氣に充ちた、家庭の主婦となつた、本會療法の根據は病人の潜在精神を變へるのである潜在精神の働きによりて性慾なり肉體なりが左右さるゝのである、依て變態の性慾を常態に變へ、病的の働きを、健體の働きに當然變へ得るのである。

(三二) 子宮外膜炎

配偶者に反抗する辯矯正法 子宮外膜炎根治法 生殖器健康増進法

某大家の夫人三十八歳は、子宮外膜炎に神経衰弱を併發し、局部の不快甚だしく、神経は過敏となり、少しの事が氣に罹り、氣が鬱ぎ働くが嫌になり、我儘勝手になり、心が變り易く嫉妬深くなり、怒りつぼくなり、良人の意見に對し、無意義に反抗して激怒を買ひ、又は頭痛がしたり、動悸が高まったり、食欲が減じたり、秘結したりして、夜はよく眠れず、月經が不順になり、時々手足が痙攣したり痺れたりする、夫人の身體は病氣のデパートメントの様である、身體中此處は健全であると云ふ所は一もない、其原因は先天的の神経質に不衛生のことを敢行せしと、良人の行爲に對し嫉妬の募れる心勞と、家庭に不幸のありしことを心配したのと、身體に無理をして働いた結果である、夫人は本會の遠隔療法を自宅に居りて受け、熱心に受療したら、次第次第と心が平和になり、心身の缺點も次第に薄らぎ、血液の循環がよくなり、手足が暖くなり、寒い思ひをしても風を引かぬ様に皮膚の抵抗力が強くなり、全く根本的に強健となり、快活な愉快の夫人となり、生殖器も健康となりて大に満足し、良人をも大に満足せしむ

るに至つた、今迄長い間苦惱の夢を見て居りしものが、俄然夢より醒めし如くである、身體中何處も今は悪い處はない、夫婦疎隔の原因は、夫人の心身不快でありし爲に、無意義に良人に不快を興へたのが、今は一變して何事に就ても良人をして歡喜せしむる言語動作となりしより良人は喜びて夫人を熱愛す、其れで夫婦の愛情は互に高潮し、渾然融合し、家庭は愛情を以て充さるゝ幸福の身となつた。

(三二) 子宮實質炎

子宮實質炎の症候 子宮實質炎根治法

症候

- 一、局部より下腹、内股、腰にかけて引きつる様に痛む、醫師より子宮實質炎と診斷された
- 一、頭痛がし、眩暈がし、耳鳴がし、月經が不順で、其都度苦しむ
- 一、首筋が張り、肩が凝り、顔面はほてり、足腰とお尻は冷へる
- 一、不快な下り物がし、少しの事が氣にかゝりて腹が立つ
- 一、顔色は青白く疲せ衰へ、本夫には何事も満足が與へられぬ

一、氣は鬱きて元氣が更になく、食欲は進まず、悲觀して居る

此患者は商人の妻君にして、年齢は三十一歳、賣藥及醫師の藥を浴びる程、飲んだが効能が左程に見えず、悲觀せる結果、本會の通信療法を受け自療法を二週間行ひしが、更に効果が現はれぬとて、患者本會に書を寄せて私には貴會の御療治は少しも効がないから、爾後自療の實行を廢めると申越せり、本會其れに答へて、自療の各項を一も落ちなく今三週間自療を續けらるゝと、確に効顯の著しきを御感じになるから、安心して引き續き自療せられたしと、説得せしかば、半信半疑で進まぬながらも尙引續いて自療すること三週間にして、患者の主訴である劇甚なる局部の疼痛消失し、全身の疲れ凝りは癒り、夜は快よく夢を見ず朝迄一と眠りに熟眠し得、食欲進み非常に快方に向ひたれば、患者は初めて愁眉を開きて、滅法に大効があると驚喜し、引續きて自療を重ねるや、一日毎に各種の症候は消え去り、殆ど全治した、先に効見えぬから自療を廢める、と速斷し廢めたなら九奴の功を一實に缺くことゝなるのでありしを、本會教授の自療法を更に熱心に繼續して遵守し、眞に復活の歡喜を得、天賦の機能に享樂し、元氣横溢せる家庭の主婦となるや、本夫は今迄夫婦生活に倦怠を來たし、不快沈憂の狀を示せしが、奥さんの磊落な元氣な健康愛の歡待に喜び、夫妻は互に熱烈火の如き愛情を交換するに至

り、家庭は人生の樂園なるを痛感する幸福の身となつた。

(三三三) 子宮癌腫

子宮癌腫の苦惱状態 II 子宮癌腫治療法 II 精力減退補給法 II

五十四歳になる公吏の妻君、永の歲月子宮病に罹り、病勢は一進一退を繰り返して、苦惱を續けて居た、其れが終には子宮癌と某病院長より診斷され、院長患者の良人に對し手術に際し死するも異議なしとの受書を出されたし、大手術に着手するからと云はれしを、患者知りて極度に手術を恐怖し、失神状態となり、死するも手術は嫌やと頑張る、止むを得ず病院より退き家庭にて療養中、本會に遠隔療法を申込んだ、併し本會は之に返書して曰く、子宮癌は手術の外療法に子子宮癌と雖も其苦痛を緩解し、安心を與ふことは必ず爲し得るが、全治せしむることをば引き受け兼ねる、旨を記して、一應遠隔療法の申込を謝絶した、すると御書の趣きは千萬承知であるから頼む、と再び申込んだ、依て本會にては遠隔療法を行ふことゝした、本會にて受療注意書を送つたら、患者は其れを讀みしも、自暴自棄となりて、其んな事で癒るも

のか、癌腫は現今醫學上必治の療法はない、博士でさへ死するも異議なしとの受書を入れよ、と云ふた此重病が斯んな事で癒るものか、と云ふて顧みずして居た、然るに其夜は不思議やいつもと異りて、苦痛も知らずに安眠した、昨夜の安眠は遠隔療法の効能である、と覺りて患者は嬉し泣に泣いた、其れで患者は本會療法の大信者と一變し、受療を熱心に重ねること二ヶ月にして、漸々快方に向ひ、回春の喜びに浸る幸福の人となつた。其後は本會教授の自療法を熱烈に根氣よく終生の修養法として實行したら、益々健全の度を高め、春雪の消ゆるが如く銀世界即ち病癥は根跡を止めずして全く消失し、失望は光明に悲哀は歡樂に一變した、子宮は強健となり、容貌態度若返り、失ひたる精力は補給され、生殖器能は中年時代の如くに復活し、生氣潑瀾として元氣は旺盛となり、仕事の能率も若返りて生々として來た、趣きを報告して謝意を表した。

(三四) 卵 巢 炎

卵巢炎必治法 絶対秘密自療成功法 Ⅱ

二十八歳になる商人の妻君、局部苦痛を感じしより、賣藥を用ひ居りしが一向に癒らぬの

で病院の診察を受けるや、卵巢炎にて卵巢が腫起せるを以て卵巢を切り取る必要あり、と云はれ非常に驚いて家族及親類の人々と相談したが、卵巢を切り取ることは手術上非常の危険あるのみか、後健全となりても子無しとなり、且脱落症併發の恐れあるを以て、切り取らずに癒すに如かず、と云はれ大に苦惱せり、最初發病せしとき人に秘し、窃に賣藥にて癒さんとして之を用ひたら、少しは快方に向ひしも、又々元に戻りて苦しき、終に取り返しの附かぬ大病人となつた、且手術を恐怖せるまゝ、本會の通信療法を受けんと良人に相談したら、良人は笑ふて其んな事で癒るものか、と云ふて顧みず、依て良人には秘密に變名にて本會に通信療法を申込み、自宅へ郵書が届くと家人に怪しまるゝを恐れ、自宅近傍の郵便局留置にて送つて呉れと申込み、本會にては其註文書の如く局留に自療法を記した書を發送した、夫人は自ら郵便局に行き、其書を受取り、誰にも氣附かれぬ様に秘密に自療法を長く繼續したら、不思議や次第とよくなりて終に根治した、其禮狀に曰く「昔日罹病當時意氣消沈し、悶えに悶え、悩みに悩みた、其苦惱は一場の夢と消え去り、今や生氣潑瀾の主婦となり、夜は熟眠し食慾は進み、働く程愉快を感じ、前途愈々有望の身となつた、此嬉しさ」云々とあつた。

(三五) 缺 落 症

缺落症の原因症候 缺落症根治法 老婆の肉附處女に變る法 配偶者の精力衰退を効に癒す法

症 候

- 一、醫師より缺落症と診断された、腔内に異常がある
- 一、月經異常で氣分が悪く、殊に嫉妬心が強まり、疝癢が高ぶる
- 一、不眠症にて發汗し、食慾不進、頭重頭痛、肩はこり、不安が伴ふ
- 一、心悸亢進し、手足や腰尻が冷え、下腹が筋張り、足腰が引きつる
- 一、本夫に對して何事も満足を呈し得ず、非常の不快感が伴ふ

缺落症に罹る原因の多くは、卵巢、子宮、又は腔部に外科手術を施したる爲に、其内分泌作用消失して起るのが普通である、のに前記の症候を呈せる患者三十二歳は富豪の夫人にして、何等の外科的手術を受けざるに、卵巢及子宮に病的變化を起し、機能消退して腔部の肉が缺け落ちて此病に罹つた、良人の不機嫌も無理はない、と我身を責め、前途を悲觀して金の有るに任せ種種の薬を買ひて浴びる程飲みしも、効が少しは見えても又元に返り、名醫に長くかゝるや、一

(三六) 頭痛冷症(血道病)

常習頭痛冷症必治法 血の道病根治法

寸輕快の感ありしも又元以上に重くなる、のに悲觀し絶望してヒステリーを併發した、本會の療法を勧めし人あるも、患者は藥物に心酔して居り、本會の療法を馬鹿にして信ぜず、併し如何の療法をしても、癒らぬので、半信半疑で、諦の爲に本會の通信療法を受けし處、自療僅か二週間にして、効果がメキメキ顯はれたのに驚喜し、大に力附いて本會療法の大信者と一變し、本會教授の自療法を永く續けて實行し、強健體となり、若返りて精力は絶倫となつた、先日迄は良人の精力が旺盛であるのに婦人の精力が衰弱して、夫婦生活の均衡を失して婦人は涙に泣いた、其れが今度は反對に婦人の精力が良人の精力を凌駕して、良人が極度に疲勞するのが目に見えて心苦しい、其れで婦人は良人には窃に良人の精力を旺盛にする遠隔療法を本會に申込み、其の希望通りとなり、良人の性愛に充ちた家庭生活に陶醉し、歡天喜地の人となつた。

缺落症患者に非ざる健康體の年増女や老婆が、此自療的通信受療を申込み、處女の如き肉體に若返りて永遠の青春を得しことがある。

症候

- 一、常習的に頭痛がし、手足が冷え、下腹が痛み又張る感がある
- 一、血ぶとりになりて足が重く、寒気がして熱が出る
- 一、内股から腰にかけて引きつる様な痛みがある
- 一、俗に云ふ血の道に罹り眩暈と、不感性と、倦怠癖とを併發して居る

此患者は二十四歳の音楽家なるが、嚴格の家庭に育ち、性的知識が缺乏して居りしより、一寸した不注意より、婦人病に罹り、其れが原因で常習の頭痛持となり、手足は常に冷え、身體の各所に苦惱の所が絶えず、病氣の貯藏所の如き感がある、本會の通信療法を受け、根氣よく熱心に受術し、徐々と快方に向ひ、尙本會傳授の自修法を長く繼續實行して、益々健全の度を増し、全く健全無病となるや、今迄如何なる療法をしても、治らぬ病中のことを追想して、病氣が不治なら、子供があるのに本夫より離婚せしめられんとした、其れが全快して、本夫の信賴を得て、家庭愛に陶醉する幸福の身となりしを、思ふては泣いて喜び、報恩の意と奉仕の意にて本會に婦人病患者を多く紹介せられ、婦人病に泣ける不幸の病人數多をして、靈妙なる回

春の喜びを得るに至らしめた。

(三七) 男女生殖器諸障害

男女生殖器諸障害自療法 無痛分娩法 惡阻即癒法 陰萎、遺精、夢精、早漏、包莖等醫藥無効の生殖器病根治法 男子性器發育不全、畢丸炎必治法 高貴精神心靈療法無効不治の病人 道德心と疾患との關係 婦女の心得べき重大事項

本會の療法は獨り婦人病に効があるのみならず、大概の病癖に大効がある、特に神經性及精神性の疾患を癒すのが最も得意である、本書には婦人病に就て素人にも面白く讀了し得る様、六ヶ敷原理を省略して通俗に記述した、以上に概述せし婦人病癖の外、本會にて治癒し得た婦人病名は枚擧に遑なきも、其中尤も顯著なる者を尙一二左に擧ぐれば。

輸卵管炎、陰門疼痛、色情倒錯症、淋毒性膾炎、膾脫、卵巢腫、性慾減退、不妊症、喇叭管水腫、子宮筋腫、性障得、喇叭管炎、子宮後屈症、乳不足、色慾變化、淋毒性關節炎、卵巢機能障害、卵巢摘出後の諸障害、月經閉止後の諸障害、卵巢より來る脂肪過多症、性倦怠、卵巢腫瘍、子宮發育不全、異常妊娠等である、尙惡阻は精神作用にて全治するもの故、惡阻を即癒

する妙効がある、又潜在精神は身體の不隨意筋を左右する力があるよりて、無痛分娩をせしむる大特色がある。

生殖器病にても、男子の病氣は婦人病に比して根治せしむることが容易である、頑固な陰萎(男根萎縮して生殖行為不能である病氣)遺精(睡眠中又は覺醒中、無意識的に何等の感覺なくして、精液を漏らす病氣)夢精(睡眠中夢を見、射精する病氣)早漏(佳境に達せざるに放精し終る病氣)包莖(皮かむり)發育不全、(男根短小なる病氣)畢丸炎、(淋毒菌畢丸を侵し、畢丸腫起膨大し、全身苦惱する病氣)是等の男子の生殖器病を根治せしめて、回春の喜びに浸さしめし實例は多數ありて、珍しくはない、稀には男子の生殖器障害の治療をなしたるに、効力があり過ぎて困つた例もある、其れで治療困難にして治癒例の尠なき、婦人病に就て記述した所以である。

實に生殖器の健否は、其人の元氣と動作と相伴ふ、而して性慾は人生の基調であり、人倫の本である、然るに之に關する理解を缺き、疾病にかゝり、意外の不幸を招き懊惱するもの少くない、人生の幸福と人倫の淨化とを望むものは、常に爰に留意し、之が修養を怠らず、疾患を未發に防がねばならぬ、若し誤りて此疾患に罹りたらば、早く全治せしむるの道を執るべきで

ある、男女の生殖器病によく効く薬も數多あり、又外科手術の方法も數多あり、醫藥療法にて重症の男女の生殖器病を根治せしめし實例は無論多數あることは申迄もないが、藥物療法及外科手術は効果もあるが危険もあり、副作用もある、本會の療法は無形の精神及心靈の働きによるもの故、實に安全で何等の副作用がない、其れで効果の顯著なること素的減法である、之れが本會療法の大特色で、他の療法の追従を許さざる點である、併し本會の通信療法を受けしも、少しも癒らぬ患者もある、其患者は本會教授の自療法を少しも實行せぬ患者である、療法を少しも實行せぬから癒らぬは當然である、其れで、自療法を熱心に實行出來ぬ患者にして、本會に來り直接療法を受けて、全治せられし患者亦頗る多い、本會にて直接療法の治療を引き受けし患者にして、本會にて指定せる回数治療せられし患者にして、全治せざりしものは一名もない、此點は獨り本會の大特色として大に誇り得る處である、併し本會にて指定せる回数治療せずして受療を中止したるが爲に全快せざりしものもあり、之は其責任患者にあり如何ともなし難い。

道徳心と疾患とは非常の關係を以て居る、道徳心の高き人程悪い事をせぬ、無理をせぬ、従て心は平和で清かである、心が清かであるから肉體は健康である、彼の花柳病に罹りて惱む人

は、其源は道徳を破つた因果應報である、道徳心堅固ならざるが爲に、悪いことゝ知りながら終に深みに落ち入つた結果である、故に心身の健全、無病長壽を望む人は、常に道徳を堅固に守り心を清かにするを要す、高貴精神心霊療法は患者の心の濁りを清めて肉體をも淨化するところが根本となつて居る。

「仙人は不養生せず腹立たず、物ほしからず其れで長生」氣は長く努めは堅く色薄く、食細ふして心廣かれ「飲み食いも色も浮世の人の慾、程よくするが養生の道」長命は朝起をして晝寝せず、酒色控へて獨寝をせよ、「樂と云ふ物を求むる心こそ、身を苦しむる敵なりけり。」

此名歌を暗誦し眞に之を實踐せば性慾病に罹ること無からん、既に之に罹病せる人も早く健全とならん、罹病者の多くは性的知識の缺乏と意思の薄弱とが原因で、身を誤り心を傷ひしものである、依て意思を強固に鍛錬し、誘惑を却け、危険に遠ざかり、環境に支配されずして、自ら純潔の境遇を開かん、との理想を以て模範的行動を執られんことを切望する。(終)

昭和三年九月一日印刷
昭和三年九月十日發行

性慾病自療例奥附
定價金五拾錢

不復無轉嚴
許製斷載禁

編輯者 兼 精神研究會
代表者 古屋 勉 男

印刷人 中野 鏌 太郎
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

發行所

東京市芝區琴平町三番地

奉 公 義 會

電話芝(43)一〇四九番

性慾病無料顧問

質問書は絶対秘密、誰にも話せぬ事の相談所

本會にて性慾病と云ふのは、生殖器病及性慾問題に就ての煩悶を總括した意味である、故に性慾問題及生殖器病に關し、苦惱する方々の味方であり、同情者であるから、之に關聯せることは何事にも郵書にて御尋ねになると、親切丁寧な御返事を致します、例へば之れ是れの病氣に悩んで居るが、如何すると全治するか、又は是れ／＼の性慾問題で煩悶して居るが、如何すると此煩悶が歡樂に換るか、其目的を達するには日數は何日かゝるか、如何すればよいか等、何事にも誰にも嘶にくい事にも、無遠慮に思ふた儘を詳しく記して、返信用郵券を添へて御問合せになると、本會では社會奉仕の爲に、何回でも御得心の行くまで、郵書による御質問に限り無料で懇切丁寧な御返事を申し上げます。

生殖器病及性慾問題の御質問書は、本會にては御質問者の御名譽を重んじ、一讀直に燒棄して仕舞ひ、絶対秘密を守ります、故に前の郵書に書いて質問せし事を後の郵書で御質問になりても、返事が出来ません、此事をよく御諒承願ひます。

本會の返書の到着を秘密にする必要上、本會名を記さず個人名義にして發信してと御書添になると左様致します、又御近くの何々郵便局留置希望と御質問書に御書添になると、其郵便局へ留置として返書を出しますから、發信せし日より十二三日目に其局に行き、局より本會の返書を受取りて御覽になると、本會と信書を往復せしことを家族の人にも知られず、絶対に秘密が守られます。

御問合せの郵書を本會へ御出しにならんとせらるゝ御方は、本書の本文は勿論、廣告迄も隅より隅迄讀了しての後にせられたし、大概の御疑問は本書の何處にか記してあります、本書に明記してあることは御質問になつても御返事を致しません、本書に明記してあることは明記してある通りと御諒承下さい、本書に明記してなきことで、御疑問がありましたら、御問合せ下さると喜んで御回答を致します。

東京市芝區琴平町三番地

(日比谷公園の南二丁
南佐久間町交番の前)

精神研究会

電話芝(四三)一〇四九番
振替口座東京二三五一番

高貴心霊自療法通信治療(貧者)規定

醫藥にて癒る病氣は醫藥にて治療すること
とを御勤めして御申込を御断り致します

一、本會は明治三十六年の創立にして、本年は二十六周年に相當す、朝起暮寝の不確實の會と異り會長古屋鐵石は各大學其他にて講演をなす事數百回、著書は數百種、高貴心霊療法は東洋にて古昔より行ふ鎮魂歸神の法術と、西洋にて近時フロイド博士が発見せし精神分析療法とが含著せる嶄新なる療法である、本會にては高貴心霊療法を通信及通學により教授し、大成功せしめし會員數萬名、又重病惡癩を實地又は通信により全癒せしめし病癩者數萬人に及ぶる多年の経験と、哲學、科學及宗教の學說とを應用して按出したのが此高貴心霊自療法通信治療であります

一、高貴心霊自療法は藥物及器械を用ひず、學術を應用し無形の靈力を働かして各人に本來具有せる心霊の働きをして旺盛となし、以て病魔を驅除する法で、患者は自宅に在りて藥石無効の病癩を職業の餘暇に秘密に自療することを得る秘訣を通信にて教授致します

一、高貴心霊自療法に最も適應せる病癩を左に申し上げます

【癩】 吃音、寢小便、小膽、強迫觀念、記憶力衰、判斷力衰、意志薄弱、赤面癩、船車暈癩、思事不述癩、

【病】 學校嫌癩、手淫癩。腦病、神經衰弱、神經痛、ヒステリー、モヒ中毒、不眠、癲癇、被害妄想狂、胃腸病、呼吸氣病、泌尿器病、動脈硬化、性慾衰弱、男女生殖器病。

此外外科手術を要せぬ病氣と、藥の効なき病癩とに効果があります

一、高貴心霊自療法通信治療の創設者である古屋會長は公職に従事し來り、其餘暇に社會奉仕として行ふもの故、無料で行ふべきの處、本會は先年の大震災の爲めに全部焼失せし故、左記の復興資金を進納せられし御方に限り、通信治療を行ひます

(但貧困にて醫藥の資金なき事を市町村長が證明したる戸主の子弟は無料にて通信治療を行ひます)

一、金二圓以上進納せし御方に
『普通療法』 心霊自療法講習録に患者の容體書を檢診し特種の修養及び攝生法

を記したる攝生法處方書及修養法處方書、を添へて郵送致します

一、金五圓以上進納せし御方に
『特別療法』 心霊自療法講習録と、靈動療法講義に、心霊自療法處方書(患者の現在症、既往症、原因、豫後等を檢診し、尙靈感により確定したる書)を郵送致します

一、金十圓以上進納せし御方に
『最特別療法』 前記の特別療法にて郵送するもの、外に、遠隔心霊療法を行ひます

一、輕症者は、普通療法にて全治します。重症者は特別療法にて全治します。非常の重症者にして全治を急がれる、御方は最特別療法を御受け下されし。心霊自療法通信御希望の御方は、左記の事項を詳記したる病癩の容體書に、前記の進納金を添へ御申込み下されし。

(一)受療者の戸主本人の住所姓名、年齢、職業配偶者及子供の有無。(二)癒さんとする病癩名(三)發病の年月日。(四)身體中の痛み又は異常の箇所。(五)原因と思ふ事。(六)發病後經過の有様。(七)嘗て罹りし病名。(八)醫師の診斷せし病名。(九)夜熟眠し得るか。(一〇)頭の工合

(一一)胃腸の工合。(一二)便通の有無。(一三)心臓の鼓動荒く打たぬか。(一四)生殖器に障害なきか、あらば詳細に。(一五)熱の有無。(一六)寢てのみ居るか、働いて居るか。(一七)嘗て精神療法を受けたことあらば其治療方法及効果の有無。(一八)神佛を禮拜するや。(一九)自己の最大缺點と最大長所。(二〇)目上の人に反抗することあるや。(二一)如何なる夢を多く見るや。(二二)今迄に最も悲しかりしこと最も嬉しかりしこと。(二三)戀愛問題にて最も喜びしことは何か、又悲しみとは何か。(二四)前途に望める目的。(二五)人の爲めに盡せしことは何か。(二六)最も大なる功名は何か。失敗は何か。(二七)忠孝を實踐するや、其他心附きし點を漏なく詳記せられたし。

御書面は絶対秘密を守りますから御安心の上、眞實を飾らずに御書き下さい。

一、本會通信の心霊自療法の方法を眞に能く御實行下さると、多年間手に手を盡しても治せざりし難病痼疾も、春雪の消えるが如く忽ち消えて根跡を留めず、快活な愉快な、勇壯な、大膽な、精力絶倫の人となります。

一、本會通信の心霊自療法を眞によく一も落ちなく、所定の日數實行せしめ効果が更に無かりし事實を正確に立證せられし人には、御申出により既納の金圓は全部返戻致します。

高貴精神療法 適應病癥

惡癖

吃音、寢小便、小膽、強迫觀念、記憶減弱、思考力衰、判斷力衰、意思薄弱、赤面癖、船車暈癖、飲酒癖、喫煙癖、潔癖、倦怠癖、交際下手癖、過食癖、過度氣兼癖、諸種の煩悶。

腦病脊髓病

腦病、頭痛、頭重、耳鳴、脊柱彎曲症。

神經病

神經衰弱、神經痛、神經過敏、歇私的里、不眠症、書癡、手足不隨、知覺異常、癱瘓質斯、心悸亢進、脚氣、癲癩、諸種の麻痺、諸種の痲痛。

精神病

妄想狂、鬱變狂。

胃腸病

消化不良、胃痙攣、胃擴張、腸胃加答兒、便秘、嘔吐。

呼吸器病

喘息、咽喉加答兒。

眼病

眼精疲勞、色盲、夜盲症、近視、斜視、遠視。

泌尿生殖器病

子宮病、月經異常、早漏、陰萎遺精、夢精、生殖器發育不良、不感症。

全身病

動脈硬化、老衰、腦溢血、諸種の貧血諸種の慢性中毒。

此外、外科手術を要せざる病人、殊に薬のきゝめなき病人に効力があり、又如何なる病氣にても苦痛を去り、病氣を苦にせざる様になる効力があり、副作用絶對になく安全有効の療法であります。

醫藥で癒る病人は醫藥で御癒し下さい。醫藥では何ふしても癒らぬ病人は御出で下さい。

高貴精神療法 直接治療

醫藥にて癒らぬ

病癥者は御出で下さい

貧者無料

普通療法(輕症者は普通療法を御受け下さい)

第一期 (三回療法) 金 五 圓

第二期 (六回療法) 金 九 圓 五 拾 錢

特別療法(重症者は特別療法を御受け下さい)

第一期 (三回療法) 金 拾 圓

第二期 (六回療法) 金 拾 九 圓

最特別療法

感應状態を自覺せんとする御方、重症を手早に根治せんとする御方は最特別療法を御受け下さい

第一期 (三回療法) 金 貳 拾 圓

第二期 (六回療法) 金 參 拾 八 圓

療法は一日一回が本則であるが、受療者の性質と症候によりて一日に數回行ひます。

出張療法

一、市内初回一回金貳拾圓以上別に自動車賃を申受けま
す。市外は場所により協定します。次回以後は初回の
半額です。

一、治療料を拂ふ資なき貧困者は、市町村長より其證明
書を得て持参すれば無料にて治療します。

施術受付時間 自午前九時 至 同十時

一、御受療の爲に初めて御來會下さる御方は、電話又は
藥書にて會長の都合を御問合せの上御來會下さい。御
問合せなく突然御出で下さると會長留守のことがあり
ます。

一、次回以後の受療時間は患者と本會との都合によりて
決定し、午前午後又は夜間行ひます。月曜日、大祭日
は休み。

一、本會は社會奉仕として治療を行ふもの故悉く無料に
して療法を致すべきの處、前記の料金は大講堂建設費と
して御願金下されたし。

一、本會にては精神療法教授及治療の爲に重税を年々政
府に納めて居ります。

一、既納の金圓は本會にて施術を謝絶する場合の外、受
療を御中止になりましたも金圓は返戻致しません。

精神研究會長 古屋鐵石先生述

心靈自療法講習錄

一名 神經衰弱獨療法

價郵共金五拾貳錢
代金引換絕對謝絕
(振替拂込用紙は最寄郵便局にて交附する)

(內容本文四十三字詰十九行の頁、九十八頁、目次三十九題)

醫藥不治の病癰に苦しむ人、自宅に在て職業の餘暇に、藥物も道具も金錢もなにも要せずして、各自に具はれる心靈を働かして、人に嗾せぬ難病惡癰を窃に癒し、精力絶倫、無病長壽をなし得る大秘法を書いてあります。

根治
し得る
容體

▼記憶力減退	▲交際下手	▼赤面癰	▼弱視	▼忍耐力乏
▼精神不統一	▼消化不良	▼意思弱	▼逆上	▼推理力衰
▼生殖器障害	▼頭腦不快	▼不熟眠	▼倦怠	▼憂柔不斷
▼思事不述癰	▼強迫觀念	▼不安心	▼悲觀	▼元氣缺乏
▼首筋肩張痛	▼顔面不快	▼無自信	▼短氣	▼煩悶不絶
▼取越苦勞癰	▼雜念不絶	▼手淫癰	▼耳鳴	▼過度氣兼
▼憂鬱怯懦癰	▼神經過敏	▼恐怖感	▼臆病	▼頭重頭痛

健康者此法を時々行はゞ精神統一、心身爽快、能率増進して不老長壽をなし得べし。

317
1163

終

